271
177

0053198000

0053198-000

271-177

子供の指導読本

尾高豊作・編

刀江書院

昭11

AHP

:54

271
177

子供の指導讀本

尾高豐作編

東京 刀江書院 刊行

子供の指導讀本

尾高鬱作 編

刀江書院刊

27ト177

序

わが子の生ひ立ちを樂しんで、その子が立派な人間になることを念願する親たちは、誰だつて子供への愛を感じないものはありますまい。大抵の親はみんな子供たちが丈夫に、さうして學校のよく出來る少年少女となることを願ひもし信じてもゐます。ところが、保育についてこれほどまで一生懸命に注意し配慮した揚句、もしもその子供が親の期待に背いたり、愛情に沿はないやうな行爲（おこなひ）、または性格をあらはすにいたつたならば、そのとき一般に親たちはどんな心持ちを抱くでせうか。おそらく非常な心配と不安におそはれるに違ひありません。さうした場合に大抵の親はその子供の表面にあらはれた問題については心配するけれども、冷靜に一歩しりぞいて、その子供の感情生活を深く理解することが出來ないものです。その結果、親心は却つて子供に對して反對の立場に立つことが多いのです。それは子供の心身の成熟に對して圓滿な精神的環境とはなりません。後になつてからそれがどんなにおそるべき結果を來たすかといふことを思ふならば、子供と自分たちとの感情生活を恆に誰よりもよく知り合つてゐなければなりません。この書はその意味から特に世の親たちにとつて育兒のとき以上に強い愛と深い理性とを示す教育の手引きとしたい

と思つて書かれたものであります。この手引きによつてあなた方の家庭生活にいままで以上の幸福と平和とをもたらすことが出來たならば、それはあなた方の悦びばかりではなくあなた方のお子さん方の將來に大きな貢獻をおくることにもなるでせう。

本書はこの前の『子供の取扱讀本』の形式にならつて編述されたものでありますが、內容は二、三の參考書からの引用は別として總て編者自身の考へから出たものであり、その責任は充分自分が負ひたいと思ひます。未だ足らざるところ盡さぬところがあるならば、他の同じ編者のものと一緒に讀まれることによつて補はれんことを祈ります。

昭和十一年七月

尾高豐作

子供の指導讀本　目次

序

まへがき……六

第一課　子供の精神生活には冷靜といふことはありえない……九

「おちついて、おちついて」といふ子供……一〇

第二課　子供を甘つたれにさせないためには……一五

よし子と太郎の場合……一七

第三課　子供をあやすといふこと、子供の感情を統制するには……二五

第一の騙す法……二七

第二の脅しつける方法はどうか……三〇

第三の方法……三二

「顧みて他を言ふ」……三一
第四課　子供は大人と闘ふためにどんな武器をもつてゐるか……三六
第一は泣くこと……三七
口答へ……四一
強情……五一
第五課　子供に明るい感情をもたせるには……五六
恐怖心……六〇
負け目或は劣等感……六四
身體の弱いこと……六七
第六課　子供の感情を社會的に指導せよ……七一
子供の清潔感の間違つた指導……七一
子供の狡るさについて……七六

子供の空想癖について……八一
第七課　子供の社會生活への用意……八五
學校の社會生活……八六
花子の悲劇……八八
先生の立場……九一
第八課　母親への手紙……九七
第九課　性的好奇心の意味……一〇九
第十課　性について子供の質問に答へるには……一一七
第十一課　どんなことをどんな風に教へたらいいか……一二五
第十二課　特に睡眠と排泄についてよい習慣をつけよ……一三三
第十三課　子供が性的によくない習慣をもつたとき……一四〇

まへがき

怒りだしたら最後手のつけられない子供
強情で強情でおどしてもすかしても言ふことをきかない子供
たへず誰かに甘つたれてゐなければ承知の出來ない子供
性的に大へん早熟な子供

――あなた方の子供がもし不幸にしてこんな子供であるとしたら、あなた方はどうしますか。生れつきさういふ性質の子供だと考へて放つておきますか。諦めてしまひますか。それとも、子供がさうなつたのは、子供の愛情生活に對するあなた方の指導が間違つてゐたためだと反省なさいますか。

子供の感情生活、特に子供の愛情生活が美しい調和をもつて健全に發達してゐるとしたら、おそらく、一寸した事に途轍もない癇癪をおこしたり、年中甘つたれてゐたりすることはない筈である。子供にさまざまな知識を與へることだけが子供を敎へ導くことではない。

一番大切なことは子供のうちに、正しい、素直な、愛すべきときに正しく愛し、怒るべきときに正しく怒ることができるやうな生活態度をきづき上げることである。では一體どうしたらわたし達は子供にさうした健全な生活態度をもたせることが出來るか。親に孝行せよ、兄弟は互に仲良くせよ、お友達とは協力せよ――こんな言葉を百萬遍くりかへして見たところで、子供の生活を本統に指導することにはならない。子供の生活態度は道德理論を說いてきかせるだけでは指導出來ない。子供の感情を、子供の愛情を、根本的に培ひ育てることが何よりも重要なのだ。

考へても御らんなさい。あなた方の子供が五歲のときに三〇までの計算を自由に出來るのと、計算は出來なくても、動物や草花や人間に對して正しい愛情を常に持つてゐるのと、一體どつちが好もしいと思ひますか。

子供を敎育し育てるのに、一番大切なのは子供の感情生活であつて、知識生活ではない。足りない知識は後からでも充分與へることが出來る。しかし、歪められた感情生活はその子供の一生を臺無しにしてしまふかも知れない。

わたし達はこの小さな書物に於いて、子供の愛情生活の正しい指導法を出來るだけ具體的にお

話したいと思ふ。そして、この小さな書物の前半では子供の一般的な愛情生活を、後半では特別な意味の愛情生活――つまり漸く目覺めかけつゝある性的な愛情生活の意識を取扱ひたいと思ふ。

尙、この書物はさきに公刊した「子供の取扱讀本」のいはゞ續編とも言ふべきものです。この書と一緒に「子供の取扱讀本」をも讀んで頂けたら、大へんよいと思ひます。

第一課　子供の精神生活には冷靜といふことはありえない。

子供は泣いてゐるか、でなければ笑つてゐる。はしやいでゐるか、さもなければ、つまらなさうに不平面をしてゐる。子供の精神狀態が平靜なのは、おそらく眠つてゐる間だけかも知れない。いや、眠つてゐる時でさへ、子供たちは晝間の怒りを、晝間の喜びを夢のなかで感じてゐるだらう。幸福でも不幸でもないやうな、大人のいはゆる平靜な精神狀態などといふものはほとんど子供にはあり得ないと言つてよい。子供の精神生活から喜怒哀樂をさし引いたとしたら、おそらく何一つ殘るものはないだらう。子供はたへず何かを感じてゐるし、何かに動かされてゐる。子供が泣いてゐなかつたら、彼の心は微笑んでゐるのだ。子供こそ感情の動物である。

ところで、全ての親たちはこの簡單な事柄を本統に知つてゐるのだらうか。「溫和しくしてゐなさいね」「靜かにしてゐるんですよ」「もつと落着いてお行儀よくしてゐなくちやいけませんよ」――どんなに度々多くの親たちはかうした言葉や命令を子供に向つて言つてゐることだらう。

だが、もし子供がいま言つたやうに感情の動物であるとしたら、およそこれつ位子供にとつて守り難い命令はないに違ひない。何故もつと積極的に、面白く遊びなさいよ、愉快にしてゐなさいよ、といつた忠告を親たちは子供に與へないのであらうか。小人閑居して不善をなすといふ言葉は誰でも知つてゐる。だが、一體世の親たちはあまりにも子供にこの閑居の狀態を命令し期待し過ぎてはゐないだらうか。さうして子供に出來ない閑居を無理矢理にさせておいて、一朝子供が何かの不善をやつたときに、眞赤になつて子供を責め過ぎてはゐないだらうか。子供が感情の動物であり、子供がその感情を抑へることを知らない人間であり、したがつてまたその躍動する感情を直ぐにも動作に現はさずにおかない生物であるかぎり、子供に閑居や平靜や冷靜を命ずることは、飛んでもない見當違ひと言はねばならない。

「おちついて、おちついて！」といふ子供

民子は今年四つである。民子がよそのお家へ行つて他の子供たちと遊んでゐるとき、民子はよくどうかすると「おちついて！おちついて！」といふ子供らしくない言葉を發する。民子は溫和しいそして陰氣な子供である。民子ほど大人の顏色を上手に讀む子供は一寸見當らないと言つてもよい。民子は一體どうしてこんな子供になり、こんな妙な言葉を覺えたのか？民子の兩親は彼等の父母の反對を押し切つて一緒になつた若い夫婦である。民子の父親が經濟的に安定してゐた間は、まだそれでもよかつた。何故なら、民子の父母はその兩親と別居して

小さな三人切りの家庭を持つことを許されたからだ。だが、間もなく若い父親は職の安定を失つてしまつた。そして、この若い夫婦の結婚に極力反對した兩親の家に一緒に住むことになつた。姑、つまり、民子にとつて祖母にあたる女は非常に口喧しい人であつた。そして民子がチヨコチヨコする度毎に「おちついて！　おちついて！」といふ命令を民子に發したのだ。嫁と姑との間はむろん圓滿には行かなかつた。姑はたへず民子とその母に小言を言つた。民子が「おちついて！おちついて！」といふ神妙な言葉を覺えたのはむろんこの祖母の口眞似に過ぎないかも知れない。だが、民子はもう既に「おちつく」といふことが大體どんな意味のことだかといふことを知つてゐる。「陰氣にヂツとしてゐること」――それが「おちつく」ことなのだと民子は子供心に考へてゐる。小市民の體面を無理矢理に保たうとあせりながら苦しい家計を切り盛りしてゐる因循と貧困の家庭のなかで、民子といふ四歲の少女が「おちついてゐる」有樣を讀者は想像出來ないだらうか。

親たちはよく口癖のやうに言ふ――「この子ときたらおちつきがなくて、ほんとに困ります」と。だが、夫等の親たちは自分の子供が丁度この民子のやうにおちついた子供になるのを望んでゐるのだらうか！

子供の顏くらゐ描きにくいものはないと言はれてゐる。言ふまでもなく、子供の顏が間斷なく

動いてゐるからであり、感情の波を湛へてゐるからである。つまり、たへず喜んでゐるか悲しんでゐるかしてゐるからである。子供の顏には刻々に移り變る表情はある。しかし、子供の顏には大人の顏に見るやうな性格はない。一定のその人らしくにじみ出た性格の刻印がない。そしてそれ故に、子供の顏は畫家には描きにくいのである。

あなた方はこの變轉きはまりない子供の表情を見究めようと努力したことがあるか？　子供が大人の顏色をよむ前に、あなた方の方から子供の顏色を何時も讀み取つてやるだけの愼重さを用意してをられるか？

子供の顏に性格が刻まれてゐないといふことは、とりもなほさず、子供が感情の生物であり、まだ性格を本統に形づくつてゐないことを意味する。だが、それと同時にまだ性格が形づくられてゐないといふことは、子供が、刻一刻、一日は一日と性格を形づくりつゝあることをも意味する。もしあなた方が、子供に年中泣き面をさせておくやうな仕打ちをつづけるとしたら、子供の表情は泣き顏といふ形に固定してしまひ、悲しみと陰鬱とがやがて間もなく、子供の顏の性格となつて來るだらう。そして言ふまでもなく、顏の性格は子供の性格そのものとなるだらう。子供の精神生活に平靜といふ狀態がないといふことは、同時に子供がまだ性格をつくり上げてしまはないといふことでもある。何故なら、平靜といふ精神狀態は人間が自己の性格にやすんじて居られるときにのみ現はれ得ることだからである。

だが、子供が平靜にして居られる唯ひとつの場合がある。それは子供の身體工合が惡いときだ。病氣をしてじつと寢てゐるときの顏色を見て下さい。子供はなんと眞面目くさつた冷靜な顏をしてゐることか。けれども病床の子供がいくら平靜な顏色をしてゐるからといつて、それを子供の精神狀態がおちついてゐるためだと考へる親はゐないだらう。

子供が平靜にしてゐる時は屹度どこかしら身體工合の惡い時である。

それと同じに、何時でも溫和しく平靜な生活態度を持つてゐる子供がゐるとしたら、それは醫者に見せるまでもなく病弱な子供であるに違ひない。

子供の感情がつねに振子のやうに動いてゐること、子供の精神狀態には何時いかなる場合にも冷靜といふやうな狀態があり得ないといふこと——この簡單明白な事實をまづ念頭において下さい。そして其處から何時も子供を見て下さい。さうすれば、屹度まづあなた方は子供の感情を診斷するといふ任務を親として感ぜずにはをれないでせう。そして子供の

感情生活の指導が如何に子供の性格の健全な發達のために必要であるかといふことを理解されるでせう。

子供の感情生活を指導するといふことは、子供の生々した感情を抑へつけ、おしつぶすことではない。それは子供の感情に適當な吐け口と通路とを與へてやることです。——子供を一層幸福にさせ、子供を一層あなた方の社會生活に適應させるために——。

第二課　子供を甘つたれにさせないためには

子供ほど強い愛情の持主はない。子供は何かを愛してゐるか、でなければ、少くともいやがつてゐる。自分の氣をひくものに對して、どうでもいゝといふやうな投げやりな態度は所詮子供の態度ではない。

あなた方は子供がそんなに強い愛情の持主であるといふことを知つて居られるだらうか。そしてその強い愛情を正しく受け容れてやることに平常氣を配つて居られるだらうか。どんな親でも子供を愛することは知つてゐる。しかし、子供に正しく愛される仕方を知つてゐる親はそんなにはゐない。

子供が甘つたれるといふことは、あなた方兩親が子供に愛されてゐるといふことに他ならない。そこで、もし子供に正しく愛される方法を知らないとしたらば、あなた方はおそらく子供の甘つたれを處理することが出來ないだらう。

まづ子供が甘へるといふことはどういふことであるかを考へて見ませう。

自分が愛しても尊敬してもゐないやうな人にむかつて甘つたれる人間はゐない。甘つたれるのは、甘つたれるその相手を愛してゐるからである。だから、甘つたれるといふことは愛情に單に飢えてゐるといふことではなくて、むしろ、自分の愛をうつたへ、その愛にふさはしい愛情の報酬を求めてゐることに他ならない。

ところが、不幸なことに大方の親たちはさうは考へない。

甘つたれるのは、ひたすら愛情に飢えかはき、愛情を親から求めてゐることとしか考へない。つまり、いま言つた甘つたれることの半面しか見てゐないのである。大變な認識不足——いや認識不足どころではない、それはむしろ人間として傲慢な態度だとも言へるだらう。何故なら、甘つたれる子供は、愛されたいといふことを訴へてゐるばかりでなく、自分もこんなにあなたを愛してゐるのだといふことを、それと同時に表白してゐるからである。そして甘つたれることが子供にとつて愛し愛されることを同時に要求してゐる事である以上、愛されるといふその半分の要求だけしか親がくみとつてやらないならば、それは同時に愛したいといふ片方の要求を無下にふみにぢることになるだらう。だからこそ、さうした親の態度は傲慢だといつたのです。愛情は全て人間の相互作用である。應答の關係

である。甘つたれる事がとにかく愛情の一種である限り、それは當然相互的な關係でなければなりません。

いゝですか——甘つたれることが求愛であると同時に、愛情の告白であるといふことを忘れてはくださるな。甘つたれることを單に求愛の形式としか考へない親は、やがては子供の愛情生活をいびつにし、子供の性格を獨立的にさせない親なのです。

よし子と太郎の場合

よし子の母親はよし子があまつたれる度に、よし子にあらゆる形の愛情をやすやすと與へる親であつた。しかしその母親はあまつたれるよし子の積極的な愛情を少しもみとめてやらうとしない親であつた。そればかりではない。よし子が甘つたれて來ることは母親にとつては大變愉快なことであつた。何故なら、よし子が甘つたれるときに母親は何時も「自分がゐなければ、よし子は一時もさびしくて獨りで居れないのだ」と考へたからであり、又そんな風に考へることは母親としての感情を充分に滿足させたからである。

そこで當然、よし子は自分が母親に向つて愛情を告白しようと思つてゐないときにも、尙母親からは溺れるやうな愛情を何時も受けることが出來た。愛情は求められないうちに既に充分與へられた。かうした愛情がよし子にとつて高價な愛情と考へられる道理はない。その愛情はそ

こいらに轉がつてゐる石コロのやうなもので、特別求めるに値ひしないものとなつてしまつた。けれどもこの愛情の過多のためによし子が母親の愛情の貴重さを知ることが出來なくなつたばかりではない。母親の愛情に對して不感症になると同時に、よし子は一方では愛情の飢渇を感ずるやうになつたのだ。もつと自分の愛情を正しく受け入れてくれ、そしてそれに對して正しくレスポンスしてくれる人——よし子の希んでやまないのはかうした愛情關係であつた。むろん、よし子はさうしたことを自覺したわけではない。とにかく、よし子はいまやあるときには極端に甘つたれになり、またあるときは、母親の如何なる強烈な愛情をも弊履の如く蹴とばして顧みない傲慢な子供になつてしまつた。

× ×

太郎の母親は大變勝氣な女性であつた。特に、太郎の父親が死んでからといふものは、この母親の氣性はますます烈しくなり、いはゆる男まさりの女になつて行つた。だから、太郎がどんなに自分の愛情をこの母親に向つて表白し、母親からの愛情を求めても、母親はそれに對して何ひとつ與へることを知らなかつた。一番素朴なそして一番簡潔な愛情の表白である「かあちやん！」といふ言葉を母親に言ひかけても、いつもいきなり「甘つたれるんぢやありませんよ！」と手きびしい先手を打たれるのであつた。だが、太郎にして見れば、母親から熱愛されたいためにそんな風な呼びかけをしたわけではなかつた。むしろ、太郎がその言葉に寄せて言つてゐるこゝろもちは「僕、お母さんをこんなに愛してゐるんだよ」といふことであつた。だが、太郎は何時もパンを求めて石をさへ與へられなかつた。愛情の價値を少しも知らない——いや、

愛情の率直なやりとりが子供を甘つたれにさせるといふ馬鹿々々しい考へのこの母親の下で、やがて太郎が早熟な子供として成長し、早くから、友達の愛や異性の愛にめざめて行つたことは言ふまでもない。だが、年頃になつて太郎がさうした異性の愛を知るやうになつたとき、この男まさりの母親は何といつたらう！「わたしはあんなに嚴格に、あんなに、　男らしく太郎を育てて來ようとしたのに！」

よし子の母親は、甘つたれることが求愛することだといふことしか知らなかつたし、太郎の母親もさうであつた。唯違ふところは、それに對する二人の母親の態度だけであつた。つまり、よし子の母親は、子供があまつたれだから、ありあまるほどの愛情をふりそそいだのであるし、太郎のお母さんは子供があまつたれだから、少しの愛をも與へようとしなかつたのである。そしてその結果は五十步百步だつたのである。

いまあげた兩つの例でもわかるやうに、およそ子供を適當に愛することくらゐ難しいことはない。愛情は、特に子供に對する母親の愛情は多過ぎるか少な過ぎることになり易い。子供に對する母親の溺愛はいままで隨分いましめられて來た。併し、單に溺愛するなといつたところで、自分の愛が溺愛であるかどうかをどうして測定することが出來るか。どこ

からさきが溺愛で、どこまでが正常な愛情であるかといふことを、どうして知ることが出來るか。加ふるに、愛情そのものは激(げき)し易い性質の感情なのです。

子供に對する愛情に於いて、母親は中庸を保たねばならぬといつたところで、問題は同じである。人はかうした場合よく次のやうに言ふ、「だから母親の愛情には理智の働きが加はらねばならない」と。けれども、理智をどんな風に働かせばよいのか。お隣り近所の母親たちの愛情と自分の愛情を外見的に比較することだけで充分であらうか。決してさうではない。

子供に對する母親としての自分の愛情が溺愛であるかどうかを知るためには——

1　子供の生活態度を靜かに觀察すること

2　たとへば、子供はお友達に對してどんな態度を常に持つてゐるか。特に年上の子供に對してはどうか。年下の子供に對してはどうか。

3　どんな場合に「かあちやん！」をいふか。

4　一日のうちでどれ位自分と子供二人切りの時間を毎日過してゐるか。

5　母親自身どんな心持ちのときに子供を愛撫したくなるか。

といつたやうな事を一度反省して見て下さい。子供は親の鏡とさへいはれてゐる。子供自身の生活や生活態度を少し丹念に觀察して下さつたら、あなたの愛が溺れたものであるかどうかはぢきに判るだらうと思ふ。

理智をもつて子供を愛せよといふことは、子供に對する愛情のなかに、なにかぎごちない理性的な御說教的な要素を入れよといふことではない。どんな狀態に在るとき愛撫すべきか、どんな場合には愛撫すべからざるかを考へよといふことに他ならない。

子供が戸外(おもて)で喧嘩かなにかをしてワーッと大聲をあげて泣きながら家へかけこんで來たとする。そんなとき、賢明な母親であつたらまづどうするか。子供を甘やかす母親ならどうするか。一度それを考へて下さい。これを考へて下さつたら母性愛に理知的要素を入れるといふことがどんなことであるかは一遍で判るでせう。

ところで、甘つたれる癖はどうしたら治すことが出來るか？　この治し方を知るためには、一體子供といふものはどんな場合に甘へたがるものであるかを知ることが必要でせう。子供といふものは自分の生活や感情に隙間(すきま)があるとき甘へるものです。

つまり——

1　所在のないときに

2　お友達との社會生活に何かしら躓きが出來たときに

3　兩親が仲よくお話をしてゐるやうなときに

4　それと反對に、兩親が喧嘩でもして、母親なら母親がうかない顏をしてゐるとき

に

このやうに、子供は自分の生活ばかりでなく、兩親の生活に隙間があるときにも、甘へたがるものです。だから、子供の生活が遊びや仕事やお手傳ひなどで充實してゐるかぎり、決して甘へるものではない。母親は仕事に追はれてゐる、しかし、子供にはなんにもすることがない——一番子供が甘へたくなるのはこんな場合です。それ故、自分が仕事をするときには、母親はかならず子供にも相當の仕事を與へてやらねばならない。

子供が自分の適當な仕事をもつてゐないといふことと、子供が甘つたれたくなることとの密接な關係は、病床にある子供の場合を考へればぢき判るだらう。病氣する前までは一度も甘つたれたりしたことがなかつたのに、「病氣をしてからすつかり甘つたれやさんになつ

てしまつて——」と嘆く母親はいかに多いことだらう。病氣をしたときには、特にこの事を注意してほしいと思ふ。

要するに、甘へることは子供の意識的な愛情生活の第一歩です。第一歩をあやまれば、むろんのこと、第二歩も第三歩もそこなはれるでせう。

はじめて子供が母親に甘へる場合には、明らかに、子供は愛情を求めてゐるのではなく、むしろ、愛情をうつたへてゐるのです。だが、もし子供の最初のこの愛の訴へに對して母親が正しく應答してやらないときには、今度は愛情の訴へは一轉して求愛そのものに早變りするでせう。そして愛の訴へが求愛に變形したせつなから、いはゆる「甘つたれる」といふ歪められた感情生活が出發するのです。

子供を甘やかす親は、實は、子供の愛情生活を自分ひとりで獨占しようとしてゐる母親である。だから、子供の愛情生活がまだ少しも社會化されないまへに、その愛情を母親が獨り占めする場合には、子供の愛情生活はいつまでも社會化される機會を與へられないことになる。そこから反社會的なだだつ子が生れるのはあまりにも當然である。何時までも「人

みしり」をする子供に甘やかされた子供が多いといふことを考へて下さい。ある種の人みしりは決して單なる內氣や恥づかしがりからのみ生じた結果ではない。子供の愛情を母親があまりにも獨りじめしたために、子供は他人に對して愛情はおろか當り前の社交をさへ出來なくなるのである。

甘へることは子供の愛情生活の第一歩です。子供はその第一歩に於いて、愛情の貴さ、愛情の價値を知ることが必要です。母親の愛情の價値を正しく——つまり、過大にでもなく、過小にでもなく子供に知らせることが必要です。それがためには、時には愛情を底に祕めた冷淡——いや、無關心な態度も必要でせうし、また時には溺らせない程度で惜しみなく與へることも必要でせう。

最後に、子供を甘やかし、子供を溺愛する親たちのために、わたしたちはひとつの引用文を書き添へておかう。

「異性の愛に溺れることは不道(ふだう)の行爲であるやうに考へられ、之に反して子供を愛することは、いくら深く愛しても、それは不德でないばかりか、親の慈愛として道德的行爲の如くに考へられるのは矛盾したことと思ふ」。(近江秋江「子の愛の爲に」より)

第三課　子供をあやすといふこと、子供の感情を統制(コントロール)するには

なごやかな、すなほな、暖い湖水のやうな感情をもつてあなたの子供が毎日を送り迎へしてゐるとしたら、あなたもそして子供もどんなに仕合せなことだらう。これに反し、あなたが始終大聲で喚(わめ)かなければならなかつたり、子供は子供で始終いらいらした、とげとげしい心持ちで朝夕過ごさなければならないとしたら、あなたも子供もどんなに不仕合せなことだらう。

子供の感情は激流に似てゐる。

わたしたちはその奔放な激流を時には抑へつけ、時には他の方向へ灌漑しなければならない。どうしたら、子供の奔流する感情の流れを平和に處理することが出來るか。

子供がききわけがなくなつて、喚き出し、暴(あば)れだしたとき、わたし達大人は普通四つの手段を以てこれをとり鎭めようとする——

第一は、文字通り子供を騙(だま)すやり方。例へば、買つてやりもしないものを「買つてあ

げるから、溫和しくして頂戴ね」といふ方法。

第二は、「何時までもそんなに暴れまはるとなにしてしまふぞ！」といふ頭から高飛車に脅かしつけるやり方。

第三は、 子供に思ふ存分言ひたいことを言はせて、上手な聽手になつてやる法。

第四は、 いはゆる「顧みて他をいふ」といふ手。「ホラ、飛行機が來たよ！」といつた工合に。

そこで、あなた方は一體どの方法を用ひてゐますか。また、あなた方自身子供の時にどの方法を一番使はれましたか。そしてどの方法が子供心にも一番良い方法だと思ひましたか。親は嘗て自分が子供のときに受けたと同じやり方を今度は自分の子供に用ひたがるものです——その方法が正しい方法であるかどうかといふことをろくろく考へて見もせずに。ですから、子供をあやすのにどうしたらいゝかを新規に考へる前に、一度あなた自身の幼時を想ひ起してほしい。屹度、その想ひ出は現在のあなたに何程かの役に立つに相違ないから。實際、子供が兩親から身體上の遺傳をうけつぐよりも、いはゞ精神上の遺傳をうけつ

ぐことの方が多いのです。だがむろんのこと、あなたが賢明であるならば、あなたは愛するあなたの子供を自分の幼時の塡め合せの材料にはしない筈です。

さて、わたし達は前にあげた四通りの方法をひとつづゝ吟味して行かう——最も安全なそして最も效果的な方法を發見するために。

第一の騙す法——これはもちろんよろしくない。一體相手が子供にせよ、大人にせよ、またその動機が善いにせよ惡いにせよ、いやしくも人を騙して良い道理はない。子供を一個の人格と認めるかぎり子供を騙すのはとにかくよくない。また、あなたが子供の人格を認めず、子供を何か可愛らしい物と認めてゐるとしても子供をだましていゝといふ理由にはならない。なぜなら、それは結局あなた自身の人格に泥を塗ることに他ならないからだ。が、どんなにわたしたちがいま此處で道德的潔癖をふりまはして、子供をだますのはよくないと言つて見ても、人々はわたしたちの言ふことをそれ程重大視しないであらう。何故なら、大人と子供、親と子の間だけは、不思議にこのだますといふ事が一般に公然と許されてゐるからである。許されてゐるばかりではない。うまく子供をだましをはせて、子供の機嫌を治すことが出來たとなると、その親は賢い親だとさへ言はれるのである。——だ

が、子供をだますことの上手な親が本統に賢い親であらうか。決して賢くはない。子供をだましつゞけた報いは屹度何時かは來るでせう——たとへば、子供の歪んだ感情生活に於いて、その不健全な愛情生活に於いて。

あやすことは騙すことではない。あやすものは子供の心持ちを知つてゐるし、子供のためにあやすのである。ところが、騙すものは相手の心持ちを考へないで、自分自身の都合のために騙すのである。

子供をいはゆる騙しておいて、なほ且つ、素直な感情や愛情を子供から期待しようとするくらゐ、蟲のいゝ圖々しい話はない。だますことは、いつはることであり、たばかることであり、おとし入れることであり、かつぐことである。かつがれて氣持ちがいゝと思ふ人間はゐないだらう。その證據にあなた自身子供にだまされたとき、どんな氣持ちがしますか？

有名なイソップの寓話で日本の修身教科書にも載つてゐる例の「狼が來た！　狼が來た！」と村人をだましつゞけたために遂々最後に狼に食はれてしまつた話をあなた方は御存知でせう。

ところで、一體この子供はどうしてそんなに他人をだますことに興味をもつようになつたのでせう？　その子供が年中大人や親からだまされつゞけてゐたために、その意趣ばらしにたうたうあんな命がけの手を思ひついたのだとはお考へになりませんか。

一體子供は小さい時分から面白半分に大人たちによつてからかはれながら大きくなるものです。大人たちは子供をからかつたり、かついだり、冗談を言つたりすることが好きです。そして子供が眞劍になつて聞けばきくほどからかひたがるものです。そこで、子供たちも自然「誰それさん——バア」とか「誰それさん——ボカン」とかいふ例のからかひ方を覺えます。だが、言ふまでもなく、こんな興味は全て大人が子供に教へたものです。大人が子供に教へなかつたら、どうして子供は人をだますといふやうなことに興味を持つでせう。

根も葉もないことを言つてだますことが本統の意味の騙すことであるとして、つぎに、それほど罪の深いものではないが、子供に幻滅を感じさせるといふ意味でやはり騙すことの一種である大人のやり方についてお話しよう。

幻滅を感じさせるといふのは、大人自身それほど面白いものとも思つてゐないくせに、子供をあやしたいばかりに、さも面白くて堪らないやうに言つてきかせるといふやり方です。

「公園へ行つてお猿さんを見て來ませう。お猿さんは面白いよ」とか「ホラ、ホラ、見て

御覽。蟻チイチイが喧嘩をしてゐるよ」とか、大して綺麗な繪本でもないことを承知してゐるくせに「まあ、何てキレイな御本でせう」とか言つた鹽梅に、子供の心を釣る手である。

もちろん、一度や二度はこの手も效き目があるかも知れない。しかし、子供はあなた方が考へてゐるよりもズッと悧巧なものだ。子供は直ぐその手には乘らなくなる。そして二度と幻滅の悲哀を經驗しまいと用心するやうになる。が、それでも尙勸の惡い大人が相不變この手を用ひることを止めないとしたら、今度はおそらく大人の方でかつがれることになるだらう。

要するに、どんな程度のものにせよ、どんなやり方のものにせよ、子供をだますのは絕對によくない。

第二の脅しつける方法はどうか——これも騙しの一種であり、だます上に威嚇するといふ點で、最も惡い方法である。大人が實行出來ないことをやるぞといふのは、結局だますことでなくて何であらう。

脅すことは精神的な暴力を用ふることである。少くとも、用ふるぞといつて、おびやかすことである。子供の心は屹度必要以上に恐怖するか反撥するだらう。それは子供の感情生活を眞正面から踏みにぢることに他ならぬ。

子供の感情生活をふみにぢり、いびつにし、ねぢ曲げておいて、その上で子供の愛情生活を正しく導かうとしたところで、出來ないことは知れ切つてゐる。

それに脅しつけるやり方の最もいけない點は、脅し方を一回目より二回目、二回目より三回目と度重なる毎にひどくしなければ效き目がなくなるといふことである。例へば一回目には「オンモへ出しますよ」でともかくも效き目があつたのに、二回目には「屑屋にやつちまひますよ」でなければ效かなくなり、三回目には「オマハリさん」を持ち出さなければ、びくともしなくなるのである。そして、その度毎に親はますます實行性の少いおどし文句を言はねばならなくなる。これが子供をあやす賢明な方法であるだらうか。

第三の方法——子供をして思ふ存分言ひたいだけのことを言はせ、愚圖りたいだけ愚圖らせ、そしてそれだけ上手な我慢强い聽き手になつてやる方法はどうか。子供の感情を尊重してやるといふ點で、一應この方法は前の二つに較べてすぐれた所を持つてゐるといへるだらう。けれども、この方法には效き目があるか？　效き目がなければ、いくら子供の感情を尊重する方法であつたところで取柄がない。だから、この場合には效き目の有無が一

番重大である。ところが、遺憾なことに、この方法には效き目がない。

といふのは、子供が一旦譯の判らないことを言ひ出したが最後、子供は次から次と愚圖る材料、難くせの種子を自分で創り出して行くからである。

愚圖り出した最初の原因は、アメチョコが兄さんの分より少いといふことであつた。ところが、ものの十分も經つてその少いアメチョコを與へて見たところでもう追つかない。「こんなちいちやいアメチョコなんかいらない」と言ふだらう。「アメチョコに小さい大きいがあるものですか。みんなおんなじですよ」と言つたところでもはや間に合はない。そんな事は子供自身とつくに知つてゐることなのだから。子供が追加されたアメチョコが小さいといつたのは、謂はゞ難くせをつけるために他ならない。大きければ大き過ぎるといふだらうし、包裝紙が破けておれば、それだけでも充分愚圖りだす理由になるだらう。

だから、この手を用いてゐたら、おそらく子供の體力がつゞく限り、百年河清を待つの嘆きを親は味はねばならないだらう。

そこで一番賢明な方法は、第四の氣をそらす、或は「顧みて他を言ふ」といふやり方である。

ルソーの『エミイル』のなかには次のやうに書かれてゐる——

「その外にまだ、子供が我儘や强情で泣く時に、いつまでも泣いてゐるのを防ぐ確實な方法がある。それは、何か愉快な或は珍らしい物をもつて子供の心をまぎらし、泣かうとする意志を忘れさしてしまふことである。多くの乳母は仲々このやり方に長じてゐる。そして上手にやればこの方法は仲々效果がある。しかしそれについて最も大切なことは、諸君が子供の心を紛らさうとしてゐることを子供に氣づかれないやうにし、諸君が子供のことに氣を配つてゐるといふことを子供に考へさせずに、子供が獨りで樂しむようにさせることである。ところが、この點になると世間の乳母は皆下手だ。」

たしかに、これは最も適切な注意である。子供の心持ちを他へ外らさうとしてゐるのだといふことを子供にも露骨に判るやうにやつたとしたら、子供は不愉快になるに違ひない。そして、依怙地になつて矢張り愚圖りつゞけるだらう。そこで、わたしたちは第三の方法と、この第四の方法とを適度につき交ぜて用ひることをお奬めしよう。つまり、ある程度まで子供に言ひ分を言はせておいて、然る後チャンスを見計らつて顧みて他を言ふのである。おそらく、これなら多くの子供に無理なく適用することが出來るに違ひない。

だが、何故この方法が一番良いのであるか。

この方法が良いのは單に效き目があるだけではない。この方法が子供のこぢれた感情をそれ以上こぢらさずに濟む方法だからなのです。

一體、親はこぢれた子供の感情を直ぐ――謂はば急角度に、素直な感情に治さうとするからいけないのです。考へても御らんなさい。人間の感情が不快から快にどうして一足飛びにかはるものですか。不快から快にうつるためには、どうしても一度快でも不快でもない感情狀態をくぐらなければいけないのです。そして顧みて他をいふといふやり方がこの感情の中間狀態を作り出す點にその效果があるのです。

それに、子供は大變體面にこだはる生物です。自分の體面にかかはると思つたが最後、善いと思つた事でもしたがらないでせう。つまり、一足飛びに御機嫌を變へることが、子供には何かしら自分の體面にかかはるやうに感ぜられるのです。ですから、この點から言つても、一時他の事に氣をそらせるといふやり方は子供には向いてゐるのです。

子供をかんたんに騙しをはせると思ふのは、子供の氣持ちが單純だと考へるからでせう。けれども、もしそんなに單純な氣持の持主である子供から、別の時には根强い、しつかりした愛情や愛情生活をあなたが期待するとしたら、今度こそあなた自身だまされる順番ではないでせうか。

子供をあやさうと思つて、子供をだますのは子供の心持ちの動きを知らないからなのだ。知らないといふより、早合點してゐるからなのだ。そして早合點して尙平氣でをれるのは子供の氣持ちを尊重しないからなのだ――本統に他人の心持ちを尊重する人であつたら、むやみに、他人の心持ちを騙さうなどといふことをたくらまないでせう。

いくら騙さうとしても、あれもいや、これもいやと頑强に頭を振り通す子供がゐる。つまり、子供にして見れば、もうそれ以上騙されたくないのです。だから、そんな場合には、騙すことよりも、あやすことよりも、子供の氣持ちを汲んでやり尊重してやることが大切なのです。

子供の心持ちを尊重してやりさへすれば、本統に子供をあやすのにはどうしたらいゝかといふことをあなた方は會得出來るでせう。

第四課　子供は大人と闘ふためにどんな武器をもつてゐるか

あやしたり、すかしたり、おどしたり、だましたり、ほめたり、けなしたり――すべてこれは大人が子供を操縦し指導するにあたつて用ひる武器である。そしてこれらの武器のうち最も平和な武器をしか用ひない親は最も賢明なる親であり、これらの心理的な武器では足りなくなつて、鞭や手の平や物指をさへ繰り出さねばならなくなるやうな親は最も拙劣なそして最も野蠻な親である。ところで――

大人の側に武器がある以上、子供もまた武器をもつてゐる。もつてゐなければ、少くとも自分でそれをつくり出す。もしあなたがたが本統に心から子供の感情生活を指導しようと思ふのであつたら、あなたがたはまづ子供のもつてゐる武器を知らねばならない。そしてその武器に打ち勝たねばならない。

子供はどんな武器をもつてゐるでせうか。

第一は泣くこと。

子供が大人を自分の意のままにするためにこの「泣く」といふ武器を用ふることについては、わたしたちは再び『エミイル』をくりひろげよう――

「泣きさへすれば色々なことがして貰へることがわかれば、子供が泣くのはあたりまへではないか。泣けばそれだけ報酬があるといふことを子供が知つてしまへば、子供はさうやすやすとは泣き止まない。そして終には子供はつけ上つて、何をしても泣き止まなくなる。それから子供は自分で泣きくたびれてやつと默つてくるのである。

子供が窮屈なためでもなければ、病氣のためでもなく、又何か不足があるためでもないのに、長く泣くのは、ただ習慣と强情のためだ。これは自然が泣かせるのではなくて、乳母が泣かせるのだ。乳母が泣き聲の煩いのに辛抱しきれないで、今日子供をだまらせると明日は子供はもつとうるさく泣くものだといふことを知らずに、だんだん子供の泣くのを增長させるからだ。

この習慣を矯正し、これを豫防する唯一の手段はいくら泣いても知らん顏をして放つておくことだ。誰だつて無益な骨折を好んでするものはない。子供だつて同じことだ。最初は子供は强情をはつて何時までも泣くだらう。しかし、諸君の忍耐が子供の强情に打ち勝てば、子供の方でも張り合ひが抜けてもう泣かなくなる。かうしてゆけば、子供は泣かないやうになり、苦痛のために自然に泣くとき以外は泣かない習慣がついて來る」（第一編）

ここまで、つまり、泣くなんて無益な骨折だと、子供が自分でさとつて來るまで、徹底的

に泣かせる方がいゝか惡いか――それは子供の性質によつても違ふでせうし、その時と場合によつても違ふでせう。例へば泣いてゐるうちに手足から全身をふるはして來る子供がゐます。こんな子供をさう度々自分で泣き止むまで泣かせておいたら、おそらくますますカンの強い子供になるでせう。こんな子供はどうしても一度神經病の先生に診てもらふことが必要です。

唯、どんな子供にせよ、一度は徹底的に泣かせて見るがいゝ。そしてその前後の具合をよく觀察するがよい。一度も自分で最後まで泣き通した經驗を持たない子供がゐたとしたら、その子の一生はとても精神的に幸福には行きますまい。

さて、泣き方には二通りある。

一は、泣き出した原因或は理由をみたしてやると泣きやんでしまふ泣き方。

二は、その理由なり原因なりを充分みたしてやつても依然として泣き止まぬ泣き方。

第一の場合にはもちろん問題はない。あなた方の子供がかういふ物の判つた泣き方をするのであつたら、あまり泣くことについて、ガミガミつけつけと仰つしやらないがいゝ。面倒なのは第二の方です。十分前には、お菓子がほしいといつて泣き出したのに、十分後

になつてお菓子をやつても、それを叩きつけたり踏みこはしたりして新たに泣きつゞける――つまり、この時にはもうすつかりこぢれた泣き方になつてゐるのです。

よく親たちはいひます「お菓子つて言つたから、お菓子をあげたぢやないか。それなのに泣きやまない！　何て片意地な子供だらう。もう、母さんは知らないよ」と。つまり泣き出した原因がお菓子だつたのだから、お菓子をやれば泣きやむのが當然ぢやないかといふのです。が、これは淺薄な理屈に過ぎない。子供の感情がどうしてさううまく算術の式のやうに行くものですか。

更に別のお母さんはもつと殘酷なそしてもつと拙劣な方法をとるのです「坊やはいゝ子だから、うんとお泣きなさいよ。坊やが泣いてゐると母さんはビンビン（音樂）を聽いてゐるやうですよ。――」。子供に皮肉やあてこすりが效くと思ひますか。冗談ではない。子供の一本氣な感情がどうして「あてこすり」のやうな間接的な非難を正しく受けいれてそして反省するものですか！　序でに玆で一言いつておきませう――

一體、親たちは自分の都合のいゝときには子供を子供扱ひにし、都合の惡いときには大人扱ひしたがるものです。例へば「坊やはまだ活動なんて判らないのだから、おうちで溫和しくお留守してゐらつしやいね。お土產を買つて來ますからね」と全然子供扱ひにしてゐるかと思へば、その翌日には「坊やはもう大きいんだから、これをなさいね」、と頭から一人並みに取扱はうとするものです。ですが、もちろんこれつ位蟲のいゝ話はありませんし、これつ位子供にとつて

迷惑なことはないでせう。子供をいつも年齢相應にとり扱ふこと――これは育兒の原則です。

ところで、いまあげた「あてこすり」や皮肉もこれに當てはまるものです。

あてこすりは大人に反省を求める方法である。これを子供に用ひそして子供がこれを理解し得たとすれば、それは唯子供の反撥心を生むだけです。

あてこすり、皮肉、いやみはひねくれた人間の取扱法です。これを適用された子供は當然ひねくれずには居ますまい。

子供の泣き方がこぢれて長泣きになつた場合にはどうするか。放つておくか、さもなくば泣き方の最も弱くなつた時機を見はからつて氣持ちの轉換をはかるより他はない。ところで、茲で注意しておかねばならない母親の言葉使ひがある。例の「もう好加減にしておきなさいよ」といふ言葉がそれです。

あなた方も嘗て幼い時代に幾度かこの言葉をきかされたに相違ない。その時どんな心持ちがしたかをもう一度思ひ出して下さい。少くとも、自分自身もう好加減に泣き止みたいと思つてゐる矢先きにこの言葉を言はれた場合を。「もう好加減になさいよ」といはれて泣き止む位の子供であつたら、最初からそんなに長泣きはしない筈です。子供にとつて自分の圖星（づぼし）をさされる位、

辛い事はないのです。圖星をさされた子供は屹度あまのぢやくになるでせう。

ですからこの言葉だけは決して使はないがよい。效き目のない言葉を子供に浴せるのは結局子供をますますいらいらさせることに他ならないのだから――。

子供が大人と闘ふために用ひる――

第二の武器は「口答へ」である。

子供ほど、「だつて」あるひは「でも」といふ言葉を使ふ人間はゐない。口答へはすべてこの「だつて」か「でも」で始まる。が、如何してこんな言葉を子供はそんなにしげしげ使ふのか。「だつて」には二種類ある。つまり、口答へには二種類ある。一は正當に反駁できる場合であり、一つは正當に――すなはち理屈の上では反抗出來ないことが判つてゐながら、感情的に反抗せずには居れないために出て來る「だつて」である。「だつて」が前の場合のものであるとしたら、親は「だつて」以下の言葉をもちろん聽いてやらねばならない。けれども、一體この二種の「だつて」をどうして見分けることが出來るか。言ふまでもなく、一通り子供の言ひ分をきいた後でなければ、どんな親でも見分けることが出來ないはづである。「だつて」をいふから惡いのではない。「だつて」のあとに言はれる理由の

いかんによつて、よしあしは決まるのである。「だつて」を言つたといふその事だけで「お前、また口答へをするんだね」式に頭からきめつける事は、結局もつと澤山の「だつて」を連發させる結果しか招かないだらう。とにかく、

1　あなたの子供はどんなときに「だつて」を使ひますか？

2　その使ふ意味はいつも同じですか？

3　「だつて」の後で言はれる言葉や辯解はいつも一貫して同じですか？　それとも、

4　一つの「だつて」の後にいくつも違つた理由が數へ上げられますか？

5　「だつて」をいふときの語調の強さ弱さにあなたは氣をつけたことがありますか？

あなたの子供はどれ位しばしば「だつて」といふ言葉を使ひますか？

あなた方兩親としては、まづこれだけの問題を吟味して見て下さい。そしてそれから、口答へをどうしたらいゝかといふ事を眞劍に考へて下さい。でなければ、あなた方の態度は決して公平な客觀的なものとは言へないでせうから。もし、あなた方がいまあげた五つの問題を本統に考へて下さつたとしたら、おそらく、あなた方は刻下（こくか）に口答へをやめさせるべき正しい方法を思ひつかれるでせう。少くともあなたが子供を本統に愛してゐる限りは。

困るのは第二の方の「だつて」です。

理由はないのだが、何かしら反抗せずには居れないためにいふ「だつて」です。ところで、第二の「だつて」についてお話する前に、第一の「だつて」と第二の「だつて」のいはゞ中間にあるやうな「だつて」があるのです。そしてこの中間の「だつて」はその使はれる數から言へば相當多いのです。むしろ、一番多いのではないかとさへ考へられます。

つまり、この中間の「だつて」といふのは、理由をハツキリ言語で發表出來ないために生ずる「だつて」なのです。自分の考へてゐることをハツキリ言へないために、「だつて」といつた切りで口ごもつて仕舞はねばならない子供――さういふ子供は責められるまへに理解されるのが本統です。吾々大人にしたつて、頭のなかでは割合ハツキリしてゐるのに、口に出してそれを明白に言へないもどかしさを隨分日常生活で經驗するではありませんか。況（さ）して、「どうしてこんな事をしたのだ、またやつたね、あれほどいけないといつておいたのに」といきなり頭ごなしにきめつけられ、從つてその言葉だけで既に多少とも昂奮してしまつた時に、どうして言語生活の不充分な子供が自分の立場や理由をよどみなくスラスラといへるでせうか？　而も口ごもれば口ごもるほど邪推ぶかくなる奇妙な親もゐるので

す。子供は思ふことが言へないためにぢれるでせう。そしてしまひには理由などはどうでもよくなつて、唯無闇に反抗して見たくなるでせう。言語生活の不充分といふ事のために、ここまで子供を追ひ詰めるのは理のあるやり方ではない！　いや、單に理のあるやり方でないばかりか、それは結局、子供の感情を荒ませ、歪ませることです。ですから、どの途一度は子供に明白に口答へさせることが必要ですし、それを聽いてやることが親切といふものです。

子供はこれから説明するやうに自分に言ひ分のない時でさへ、何か言ひ分をつけずには居ないほど、強烈な自己擁護論者です。況や、自分に言ひ分がありながらそれをハツキリ言ふことも出來ないし、言はせてもくれないとなると、子供としては自棄でも起すより他はないでせう。

さて、話をもとへ戻して、すぢ途の立たない反抗の場合をお話しよう。筋途が立たないといつても、それにも二通りはある——

1　自分で筋途をつけて抗辯する事は出來ないが、併し心の底では自分を正しいと考へる——少くとも直覺してゐる場合

2　自分の方に何等の理由も言ひ分もないのを承知しながら、口惜しいばかりに口答へする場合

子供が一番猛烈に反抗し口答へするのはこのうち第一の場合である。第二の場合になるとよつぽど病的な子供ででもない限り、口答へはそれほど長く根強くつゞくことはない。子供の口答へあるひは反抗がこの内第一のものであるか、第二のものであるかを見分けるためには、まづ子供の語調を聽くのです。おそらく、もし口答へが第二のもの、言ひ代へれば根柢のないものであつたとしたら、どんなに子供が大聲を出したとしても、どこかその聲音にはから威張り的な響きがあるでせう。この響と調子をまづ見きはめるのです。聽き分けるのです。この二種類の聲を、あなた方は飼犬の場合ならばハツキリ區別出來るぢやありませんか。況して相手はあなた方の愛兒なのです。あなた方に聽き分けようといふ熱意がありさへすれば、決して出來ないことではない！

理由があつて子供が口答へするのであつて見れば、理由がないかぎり子供は口答へをしない筈です。ところが、理由がないのに口答へをし反抗するのであつて見れば、子供は事々に口答へをするでせう。そしてその口答へは全然別の精神的理由から——例へば反感とか、反抗のための反抗とか、一口に子供の反抗的態度から出たものであるでせう。もし子供の口答へがさうした一般的な生活態度から生ずるものであつたとしたら、口答へをするといふそのことだけをいくらとりあげて戒しめても駄目です。その根本的理由を探さなければ、そしてその根本的態度

を治してやらなければ。

子供が大人と闘ふために用ひる武器を最も一般的に言ふならば、子供のこの反抗的態度をあげることが出來るだらう。ところで、この態度には幼年期の殆んど無自覺的なものから、思春期の自覺的なものに到るまで樣々な種類や程度がある。例をあげよう——

『してはいけないといふ事をわざとしたり、大人のいふ事にわざと反對したりするのも、今日此頃の道樂のひとつである。そんな事をしてはいけませんよといふと「していゝのよ」といふ。優藏はいゝ子だからよしませうといふと「優ちやんいゝ子でない」といふ。親類へ遊びに行く時、向ふの子供と仲よくするんですよといひきかされると「いや、けんかする」と叫ぶ。何處かで聞嚙つて來た唱歌のひとくさりに、どめんください花子さんといふのがあつて、得意になつて繰返すから、親馬鹿も聲を合せてうたふと「違ふ、花子さんでない。優藏しやまだ」といふ。そんなら、さうしようと、どめんください優藏さんとうたふと「優藏しやんでない。花子さんだ」といふ。花子さんといへば優藏しやまだといひ、優藏さんといへば花子さんだといひ張つてさいげんが無い。それ程まがつた旋毛もいつか眞中にをさまつて、親と子がいつしよにうたふ時こそ親馬鹿のしあはせである』(水上瀧太郎「親馬鹿の記」)

子供の反抗的態度が、かういふ朗かなそして多分に遊戯的な形で現はれてゐる場合には、

親も子も仕合せである。けれども、もしもつと深刻な問題について、もつと眞劍な形でこの反抗的態度が現はれる場合にはどうであるか。子供はたはむれ、じやれ合つてゐるうちに、何時の間にか喧嘩をしてしまふものである。それと同じに、「かうだ、」「さうぢやない、」「かうだ、」「さうぢやない、」「いや、かうだ、」「さうぢやないつていふのに、」といつた具合に、反抗的態度が最初の冗談半分(じようだん)からだんだん眞劍にもなり險惡にもなるといふことは、決して珍らしいことではない。

他愛のない事柄についてなら、どんなに言ひ合つてもいゝといふことは間違ひである。何故なら、他愛のない事柄についての言ひ合ひは、重大な問題についての言ひ合を、そしてそのやり方を、準備するものに他ならないからだ。だから、もし子供と一切言ひ合ひをしたくないと思つたらどんな愉快な事柄についても親は子供と言ひ合ひをしないがよい。喧嘩ごつこは結局喧嘩の下稽古(したげいこ)に過ぎない。

子供のこの反抗的な態度を子供の自己主張——もつとむつかしく言へば、自我の意識の發達に結びつけて說かうとすれば說けるかも知れない。又、子供は自分より力の强いそして自分より權力をはるかに持つてゐる大人たちに反抗する事によつて自分の力を增加させて行くのだとも

一應は言へるだらう。或は又若き世代は常に必らず老いたる世代に反抗すべきものだと公式的に片づけることも出來るだらう――併し問題は說明をすることではくて、問題を解決することなのである。わたしたちは一體どうしたらこの反抗的態度を上手にさばくことが出來るか。

第一に、子供に命令するときの態度や言葉使ひを注意してほしい。

頭ごなしの命令、傲慢な態度の代りに、相談でもする時のやうな協力的な態度をとつたとしたら、それでも子供は反抗をしたがるでせうか。命令を出してそれつ切りにしておくのは賢明ではない。必らず、命令をまもつてくれた事に對して感謝の意を表すること。

第二に、子供をして無暗に命令させぬこと。

子供が机の角に頭をぶつけたとき母親たちは何といふか。「この机、ワルイ机ね、メツしませう。バイしませう」。子供はかうして自分の行動や意見をはゞむ一切のものがワルイものであることを早くから知るのである。このやうに子供の心を習慣づけておいて、子供が大きくなつて母親の意見と衝突したときだけ、子供に自分のワルイことを反省させようとしたところで出來るわけはないぢやありませんか。

一體、親は自分の言ふことだけを子供に守らせようとするからいけないのです。机や柱にまで、それが子供の頭と衝突したといふ理由だけで、退去命令を出したくせに。柱が子供の思ふ樣にならないことを何故敎へなかつたか。物や動物と子供が衝突した場合、物や動物がワイルのだといふことを散々言つてきかせておきながら、子供が親の立場と衝突したときに限つて、今度

は子供の方がワルイのだと思はせようとしたところで、どうして出來るものですか！

第三に、反抗は結局子供の得(とく)にはならないといふことを敎へよ。子供の心に特有な鋭い功利主義は直ぐにもこれを學ぶことが出來るだらう。

第四に、子供をどんなときにもからかはないこと。子供をからかつて子供に反抗することを敎へておいて、さていざといふときに子供が言ふことをきかないからといつて叱りつける親が何と多いことだらう。

第五に、子供のかりそめの反抗的態度にも注意して、冷靜な、そして場合によつては無關心な態度をとること。

わたし達はこれ以上の注意をここでする必要はない。要するに、口答へをさせたくないと思つたら、どんな形のどんな種類の口答へも早くから許さぬやうにせよ――根本的な注意はこれだけで充分である。けれども、一方子供の心が日に日に成長しつゝあることをどんな場合にも親は忘れてはならない。そして、子供の心の成長につれて、それぞれ違つた扱ひ方をしなければいけない。自尊心が出て來たらその自尊心を傷つけないやうに、注意を與へねばならない。

だから、わたし達はここで簡單に子供の心の發達を年齡順に記しておかう。

子供の心は一般にどんな過程をとつて發達するか？

一歳から二歳まで――子供は完全に親次第になる。子供にはまだ獨立の力がない。感覺的な自己滿足が行動の一切をきめる。

二歳から五歳まで――社會的な接觸によつてだんだん一本立ちになつて來る。自分についての意識、自分についての批判、意志の力が現はれて來る。

五歳から八歳まで――個人主義、自己本位、といつた感情が全生活態度を支配する。

八歳から十二歳まで――團體精神、附和雷同の精神、自己本位の立場の消滅、朧げな性的意識の覺醒がこの時期の特質である。

十三歳から十五歳まで――思春期。

十五歳から十九歳まで――心理的に、つまり感情や精神の點から見て完全な青春期。

二〇歳から二五歳まで――身體的に、つまり肉體の上から見ても完全な青春期。

ところで、あなた方の子供が、極く大雜把に言つても、これだけの心理的變化、精神の成

長をいや應なしに經驗して行くものである以上、あなたがたはこれに對して適當に處する方法を知らねばならない。だが、わたしたちは唯二つの重要な注意をあげるにとどめておかう――これだけはどんな事があつても記憶しておいて下さい。

1　子供の心の變化に應じてあなた方の態度をも變化させること。

2　ひとつの時期から他の時期への移り變りの時期、つまり心の轉換期に於いては、子供の行動や態度に對してつとめて大目に見ておくこと。

歯が生へるときには、あなた方は嘗てあんなにまで思ひやりのある態度を取つたではありませんか。心の歯が一本づゝ生へて行くこれらの轉換期に、あなた方がもつと思ひやりのある態度をとれない道理がどこにあるでせうか――

話が大變横道へ外れたやうです。元へ戻して――さて、子供が大人と闘ふために用ひる最後のそして最も頑強な武器は――

強情です。

子供の強情に一度も手を燒かなかつたやうな親があるでせうか。しかも、子供の強情に手

を燒いた親はすべて口を揃へていふのです「この子と來たら生れつき強情で強情で、手のつけやうもないんですよ。」と。けれども、強情は生れつきのものだらうか。強情は決して生れつきのものではない。その證據に、同じ子供でも強情な時代とそれほど強情でない時代が必らずあるのですから。とにかく、強情の取扱ひ方をお話する前に強情といふことについて一應考へて見ようではありませんか。

千代子にはこのブリキの玩具が大變氣に入つてゐるのです。ところが、お母さんは千代子がそれを持つて遊んでゐると必らずいけないといふのです。そして必らずそれを千代子からとりあげようとするのです。そのたびに千代子はお母さんと強情に鬪ひ、揚句の果てには泣かねばならないのです。「千代ちやん！そのおもちやはあぶないからよしなさいね。いまに怪我をしますからね」とお母さんは言ふのです。けれども、千代子にはこの「あぶない」といふことが皆目どういふ事だか解らないのです。千代子に解つてゐるのは、このおもちやが好きだといふこと、そしてこの玩具をもち出せば必らずお母さんが叱るといふことだけです。そこで、お母さんが叱れば叱るほどこのおもちやがほしくなるのです。おもちやをむりやりにとりあげられたとき千代子は何時までも何時までも機嫌がわるいのです。千代子は今年滿三歳になつたばかりであり、あまり悧巧な子供ではありません。「いまから、こんなに強情だとさきが思ひやられる」——お母さんは逢ふ人毎にかう言つてこぼすのです。

この簡單なお話から千代子がなぜそんなに強情になつたか、また強情とは何かといふことを考へて見ませう。

1　強情は親と子との意志がうまく疎通しないために起るものであること。

2　從つて理解力の少い子供、つまり頭のよくない子供ほど強情になり易い。「聞き分けのない」といふ日本語は強情といふ意味と理解力のないといふ意味とを含んでゐますね。

3　子供の強情はかならず——少くとも多くの場合、親の強情によつて生まれたものです。「いけないつて言つたらいけませんよ」——何と全ての親が強情な子供に向つて強情に言ふことでせう。

4　滿三歳前後——つまり少しばかり言語活動が流暢になりかけてはゐるが、まだしかし自分の思ふことをキチンと話の出來ない頃に、強情は起り易いものです。

千代子の場合をこんな風に考へて來ると、千代子だけが特別強情なのではないのです。

だから、もしこの年頃の子供で、千代子とは正反對に親のいふことを何でも逐一（ちくいち）ハイハイと素直にきく子供がゐたとしたら、むしろその子供は正常な發達を遂げてゐない――少くとも身體が虛弱であつたり、したがつて、意志が弱く、そこで病的な溫和しさをもつてゐるのかも知れない。

あまりに素直なのは病弱のためで、普通に强情なのは生活力が旺盛なためだと一應考へて下さい。又考へて下さつてもよいと思ひます。

けれども、他の全ての事と同じやうに强情にも、やはり病的な人並み外れた强情がある。例へば、言ふことをきかないので、押入れへ入れておいたら、到頭「お出なさい」といふまで一日中默つて强情をはり通し押入れのなかに入つてゐたといふやうな子供がゐたとしたら、それこそ特別强情な子供と言へるでせう。

だが、かうした特別な强情はどうして出來たものか。

米國のある兒童相談所のお話ですが、この相談所へ子供の强情を苦にして相談に來られるお母さんと子供達を統計的に調べて見ると、三歳前後と十歳前後の子供が一番多いことが判つたのです。そこで、この相談所の所長――有名な兒童心理學者ですが――は、この二

つの時期を子供の**强情期**と名づけたのです。が、考へて見るとこの强情期の發見は決して新發見でも何でもないでせう。おそらく、三人以上の子供を育てた事のある母親であつたら、誰でもおぼろげながら氣付くことに相違ないのですから。で、とにかく、子供は一定の時期に於いて他の時よりも一層强情になるわけなのですが――

この强情期の取扱ひをあやまると、子供の强情はこぢれてしまひ、だんだん長引くのです。そしてかういふ風にこぢれた强情、長引いた强情を、わたし達は特別な强情と呼んでゐるわけなのです。それは餘りに强情を急激に治さうと試みたために却つてさうなつてしまつた場合もあるでせうし、それと反對にうつちやらかし、甘やかす一方にしてゐたためにさうなつた場合もあるでせう。がとにかく、普通の强情が特別な强情に發展したわけなのです。そこで、特別な强情をなほすためには、まづこの普通の强情を治してかからねばならないのです。

では强情を指導するにはどうしたらいゝか。

强情の原因によつて治療法を探し出すより他はないでせう。

もし强情が知能の低いこと、理解の足りないことによつて生じたものであるならば、知能

を高め、理解を深くしてやる事が必要です。

もし强情が他人の立場を理解し得ないために生じたものであるならば、出來るだけ子供を他人のなかへ出し、所謂社會化させてやるのが一番でせう。

更に、もし强情が言語活動の不充分から由來したものであるならば、百の說敎よりも一つの言語敎育の方がもつと效果的であるでせう。

とにかく、强情の原因をあなた方が知悉するならば、强情を治すことは感情敎育ではなく、むしろ知識敎育や意志敎育であるのだといふことを心から理解されることと思ふ。

强情をひとつの固定した子供の感情狀態としか考へない親は結局何時まで經つても子供の强情を征服することが出來ないでせう。

最後に强情について二三の注意を書いておきませう。

强情をはる子供は普通「强い」子供と考へられてゐますが、それは反對です。自分自身に自信のない子供ほど、つまり精神的に弱い子供ほど、定つてききわけがないのです。

强情をはる子供は見榮坊で體面屋で內氣な子供です。そして一寸した事にも癇癪を起すほど氣が小さいのです。

身體の工合が惡いとき、子供はどうかすると强情をはるものです。

普通の子供であつたら、好加減强情をはつてしまへば自分自身でもやがて强情を切り上げたくなるものです。そして親が最も工合よく子供の强情を他の氣分に轉換させ得るのは正にこのチャンスです。

强情の取扱方については「泣くこと」について述べたことを思ひ出して下さい。呼吸はひとつなのですから、敢て再言しないことにします。

第五課　子供に明るい感情をもたせるには

子供の感情生活をつねに明るい朗かなものにしておくことは、すなはち、子供の生活を幸福にすることにほかならない。どんなに澤山のおもちやを持ち、どんなに立派な子供部屋を與へられ、どんなに美味しい食物を與へられてゐたとしても、もし子供の顔が生々とした明るさに充ちてゐないならば、そして何時も何かしら不足らしい退屈な顔をしてゐるならば、その子供は決して幸福ではない。子供の幸福は全部明るい感情の有無にかかつてゐる。

子供の感情は卒直です。子供は決して幸福感を持たないのに幸福さうな顔をして見せるものではない。だから、子供が幸福であるかどうか、彼の感情が明るいか暗いかは一遍で判るでせう。だが、子供の感情が明るいか暗いかを直ぐ判る親でも、何故明るくして居れるか、何故暗くしてゐるのかといふその理由となると一寸判らないかも知れない。いや判らないばかりか、子供の暗い表情の原因を思ひちがひして、どんなに多くの親が無駄骨を折つてゐることでせう。而も、さうした親にかぎつて、自分の骨折が子供にとつて無益であつたか有益であつたかといふことは考へないで、唯骨を折つてやつたのだといふことだけをしか考へたがらないものです。そこで、かうした親たちはすべて「母さんがこんなに言つてゐるのに！」「母さんがこんなにまでしてやつてゐるのに！」といふ言葉を吐くのです。しかし、無駄な骨折はどこまで行つても無駄です。無駄にせよ何にせよ、とにかく「お母さんは自分のために骨を折つて下さつたのだ！」などと小さな子供がどうして考へるものですか。

子供のために骨を折つたといふことだけでは、親の自慢にはならない。問題はどんな骨折をどういふ風に子供のために適確にしてやつたかといふことなのです。が、それにしても世の中に母親ほど愚痴つぽいものはないでせう。而も愚痴つぽい母親がこんなにも多くゐるといふことは、とりもなほさず、こんなにも多くの母親の骨折が所詮無駄骨折で見當違ひであつたことをハッキリ物語るものでなくてなんでせうか。子供のために骨を折る前に、まづ賢明であることが母親にとつては絶對に必要なのです。

さて、子供を何時も幸福な心持ちでみたしておくには、つまり、明るい感情を子供の心に湛へさせておくには、どうしたらよいか、子供の御機嫌ばかりとつてをればそれでよいか。

御機嫌をとることは子供の感情を暴君的なものに仕上げることです。子供の感情を荒ませることです。御機嫌をとつてもとつても、むづかり出したら最後まるで受けつけない子供がゐるではありませんか。子供を仕合せにするには玩具を惜みなく與へればよいか。子供は一枚の木の葉、一つの石コロででも幸福に遊ぶことが出來るのです。多過ぎる玩具は、丁度いろんな雜用にとりまかれた大人の場合の樣に、子供をイライラさせるでせう。子供の心を明るい光で充してやるためには、その光線をさへぎるべき要素を除いてやればよいのです。子供の心をともすれば暗くさせるものをとり拂つてやれば充分なのです。ですから、子供の心を暗くさせるものは何か――わたし達はこれを考へるのがいまの場合一番近道のやうです。

子供の心を暗くさせる第一のものは――恐怖心です。

子供の恐怖心は大半親の傳へたものです。親が鼠をこはがれば、子供も負けずにこはがるでせう。だから子供から恐怖心をとり除くためには、まづ母親自身が恐怖心をとり除くことが必要である。それから子供の恐怖はそのこはがるものに馴れ親しむことによつてとり除かれるものです。

「エミイルを鐵砲の音に慣らさうと思へば、私は先づ短銃の中で口火を燃やして見せる。此の火花ぐらゐの光なら、子供は喜んで見てゐる。私はこれを繰り返してゆく中に除々に火藥の量を增してゆく。その中に塡板をとつて少しづゝ彈藥をつめ、だん〳〵と大きな彈藥にしてゆく。さうして、遂には私はエミイルを小銃の音にも驚かないやうに慣らしてゆく」（ルソー）

だが、すべての兩親にこれだけの愼重さがあるだらうか。「こんなものがこはいなんて、お前はよつぽど臆病だよ、さあ、よつく見て御らん」――かういつて子供のこはがるものをいきなり子供の鼻さきへつきつけて、そして子供を一度でこはがるものに慣れさせようとする性急な親が何と多いことだらう。けれども、これでは益々こはがらせる結果にしかならない。子供の感情をそだてるには、知識を敎へるときよりも遙かに大きな忍耐が必要なのです。

子供の恐怖心について、わたし達は少し箇條書きに說明しよう。

まづ第一に、あなた方のもつてゐる恐怖心と子供の持つてゐる恐怖心とが全く違つたものであることを記憶せよ。

例へば、大人は恐怖の對象を考へれば考へるほどこはくなるのに反し、子供は直覺的にこはいと感ずるのである。大人の恐怖には理由があり、子供の恐怖には理由がない。そしてそれだけ

子供の恐怖心は度が強いのだ。

子供の恐怖心には健全なものと不健全なものとがある。そこで、不健全な恐怖心はなるべく早くとり除くやうにせよ。何故なら不健全な恐怖は必らず子供の自信を失くすからである。

不健全な恐怖とは自分の身體や精神に何等の害をも與へないものを病的に恐れることだ。例へば子供が自分の影をこはがるとか、小さな可愛い蟲をこはがるとかいつたものがそれだ。不健全な恐怖は慣れることと知能を高めることによつて容易に除かれるだらう。

次に健全な恐怖は子供を用心ぶかくするといふことを記憶せよ。

火を適當におそれる子供は火を用心する。そして恐怖が用心を生むかぎり、恐怖は子供の生活指導の上で、ひとつの大きな意味をもつてゐる。

子供の恐がるのを無視したり馬鹿にしたりしてはいけない。

これは隨分多い。馬鹿にするどころか、子供をこはがらせて面白がる親さへ居る。彼等は前にも言つた子供の恐怖心と大人のそれとの違ひを知らないから、平氣でゐたり馬鹿にしたりすることが出來るのだ。

あまりに頻繁な又は過度の心配をして、子供に臆病な態度を作らせてはいけない。

「あぶないよ！」「おつかないよ！」「落ちるよ」「怪我するよ」―― こんな言葉を年中きかされ

てゐたら、子供は用心ぶかいのを通り越して臆病になるだらう。

子供をしてこはがるものについて語らせるやうにせよ。そして、こはがるもののうちに何か面白い愉快な要素を發見せしめるやうにせよ。

鼠をこはがる子供であつたら、あの可憐な初々しい眼つきを見せてやれ。子供が自分の恐怖を親たちに説明することは大變有益だ。説明することによつて子供は次第に恐怖心を失くして行くことが出來るからだ。「何とも言へないこはさ」を口に出して言へるように訓練せよ。

全てのこはい物、全ての危險な環境をことごとく子供の生活からとり除かうと努力してはいけない。

これは結局子供をもつと大きな臆病者に仕立てることに他ならぬ。それほどでない危險には少しづゝ馴らせるやうにせよ。小川の一本橋を何時までも渡れないやうな子供を育てあげておいて、「私は子供をあらゆる危險から守つて來ましたのに」と自慢するやうな母親はあまり値打のない母親である。多少の危險、少しばかりの冒險を子供が敢行したときに、子供はどんなに素晴しく喜ぶことだらう。この快感によつて子供の恐怖を克服せしめよ。

（尙、臆病については「子供の取扱讀本」第八課をこれと一緒に讀みなほして下さい）

子供の心を明るくさせるためにとり除くべき第二のものは――

負け目、或は**劣等感**です。

子供の心の片隅に何かしら自分自身についての負け目が感ぜられてゐるとしたら、子供の心は決して明るくはならない。子供は大人と違つて詰らないことを氣に病むものである。顔におできが出來て絆創膏をはつただけでも、女の子供なら負け目を感ずるだらう。況して片脚が短つたり、みつくちであつたり、頭の毛が奇妙にちぢれてゐたりすれば、子供は常に他の子供の前で負け目を感ぜずには居れまい。もちろん、大人であつたら、負け目を感ずる一方に於いてそれを充分償ふに足る自分の長所や才能を見つけて自らなぐさめるであらう。併しこんなことは子供には出來ない。書き方が上手であることを自惚れることによつて、小指が一本ないのを氣にせずに居れるやうな子供は世界中さがしても居ないだらう。子供ほど自分の負け目に對して敏感なものはない。そしてその負け目に對して少しでも他人の注意が向けられるとき、子供の心は一度に眞暗になつてしまふのだ。子供からどうしたらこの負け目——劣等感をとり除いてやることが出來るか。

子供が本をよめるやうな年頃であつたら、何よりもさきにかうした負け目を心の持ち方と努力によつて克服した少年少女の物語を與へよ。

子供の負け目と感じてゐる點を明らさまに名ざして「そんなことをクヨクヨ苦にするんぢやない」といつてきかせたところで、結果はますます苦にする位のものだ。その點で、讀書は間接に「苦にする必要がない」ことを子供に敎へるだらう。そして子供は心ひそかに安心もし、自分でその劣等感を克服することに努力するだらう。

親が叱る時はもちろん、兄弟喧嘩をする時にも、決してその負け目を感じてゐる點を話題にしないこと、またさせないこと。

兄弟喧嘩のときはきつとこの負け目が利用されるものだ。「ビツコやい！」「ちぢれつ毛やい！」といつた鹽梅に。これは是非とも止めさせねばならぬ。

自ら子供をして長所なり美點なりを發見させるやうにせよ。それがためにはまづ親自身がその美點なり長所なりを認めてやつてこれを褒めることを忘れてはならぬ。

子供が自分の負け目を克服しようとして、遂に正しく克服することが出來ない場合に現はれる現象は自棄半分の心持ちである。子供の劣等感はどんな事があつてもここまで導かれてはならない。

かういふ氣持ちになつたとき子供はよく言ふものだ、「どうせ、わたしは……なんだから」。この「どうせ」を言はしてはならない。それは既に心がひねくれひがみ出した徵候であり、子

供が一旦ひねくれたりひがみ出したりすると、もう二度と子供は凡ゆる仕事や勉強に於いて力一杯精一杯の努力をしなくなるからだ。そして、それがためますます劣等な點は劣等になつて行くだらう。

例へば、身體の不具なら不具についての劣等感は子供が物心つくと同時に出て來て、ずうつと同じ強さで子供の心を暗くするものではない。つまり、それについての劣等感を最も痛切に感ずる時代とさほどに感じない時代とがある。だから、劣等感を上手に取り扱ふに當つて重要なことはこの心の動きをよく觀察することである。いままでそれを苦にしなかつたから、今後も苦にしないだらうと思ふのは間違ひも甚しい。

子供は自分と友達との相違について、或は自分と兄弟との相違について、驚くほど敏感なものである。そして劣等感が強く暗い影を子供の心に映し出すのも所詮はこの敏感さの故に他ならない。この敏感さは子供を他の子供と比較して見せることによつて益々鋭くなり、その反對に比較するやうな機會を與へなければ、それほどでなくなる。子供同志を決して比較するなかれ。比較することによつて競爭心を刺戟する場合よりも、負け目を感じさせる場合の方が、一層多いといふことに注意せよ。

劣等感をもつ子供はその反面に於いて同情心に富んでゐるといふことに氣をつけてほしい。さうしてその同情心を通して優越感を養ふやうに努力してほしい。劣等感をもつてゐる子供に特有な――といつては少し大袈裟であるが、少くともさうした子供がよく持ち合せてゐる同情ぶかい態度を優越感に高めてやるか、それともひねくれた感情にゆがめてやるかは、親の取扱ひひとつである。

子供の心を暗くさせる第三の原因は――

身體の弱いこと、身體工合の惡いことです。

これはいま更説明するまでもない。赤ん坊を育てた事がある親なら全て知り拔いてゐる事柄である。子供は身體の調子さへよければ明るい氣持をもち續けることが出來るのだ。少くとも、身體の調子がよければ少し位不愉快なことが起つてもすぐそれを忘れてしまふことが出來るのだ。だが、身體の調子が惡いときに不愉快な事件が起つたとしたら、心持ちは加速度的に暗くなる。いままで度々引いて來たルソーの理想の子供「エミイル」は十二歳になるまで身體を健全にすることしか學ばないのである。それだからこそ明るい感情

と健全な判斷をくだすことが出來たのだ。

子供の身體を健全にするにはどうしたらよいかといふことを逐一此處で述べてゐるわけには行かない。だが、夫等の方法については全ての母親たちはおそらく充分に知つてをられるでせう。たゞ、わたし達は一つの事だけを言つておかう。他でもない子供の生活——食事・睡眠・排泄等を規則正しくするといふことだ。そして規則正しくするためには時計に從つて生活させることだ。時計を忘れた母親の許(もと)では、子供は十中の九まで虚弱に育つだらう。「あ、もうお晝なのね！」——子供に言はれてかういふ言葉を發するお母さんは子供の健康を注意しないお母さんなのだ。「時間をまもれ！」——子供の健康教育のためにこの新しいモットーをあなた方に贈ることにしよう。

俊子の母親は俊子の身體に大變注意を拂つてゐる。俊子の母親は下手な藥劑師ほどの藥の知識はもつてゐるし、又藥をもつてゐる。少したべすぎたやうだと思はれるとすぐヂヤスタ1ゼを與へる、「運動なさいね」と言ふ代りに。かうして俊子は藥をのむことにいまでは興味を覺えるやうになつた。藥をのんでさへをれば病氣になつても大した事にはならないのだと考へ出した。「これは美味しい。少し澤山たべよう。後で胃腸藥をのめばいゝのだから」——俊子はここまで考へるやうになつた。果して俊子は丈夫な子供になつたとあなた方は考へますか。

醫者に相談するのはよい。しかしあまりに、度々醫者に相談し過ぎてはいけない。子供の身體はあなた方の身體と違つて、グングン旺盛(わうせい)に發育しつゝあるのだ。醫藥についての知識、榮養に關する知識を少しばかりもつてそれによつて自分の健康法を考へてゐるやうな子供を見ると、わたし達は泣きたくなる。それを教へたものは誰なのか？

「虚弱な身體は精神を弱くする。そこで藥がはゞを利かすことになる。これが人間に非常な害を及ぼす。藥は病氣を癒すと言はれてゐるが、藥で癒さうとする一切の病氣の害よりも藥の害の方が人間には更に危險なのだ。私は、醫者がどんな病氣を治すか知らない。けれども私は醫師が更に危險な病氣を與へることを知つてゐる。卑怯、臆病、迷信、死の恐怖等の病氣が卽ちそれだ。醫者は身體の病氣を治しても勇氣を殺してしまふ。醫者が屍骸を歩かせたところで吾吾に何の益するところがあるか？　吾々に必要なのは人間なのだ。そして人間が醫者の手から生れて來るといふことは金輪際ない」。（ルソー）

子供の感情を暗くするものとして、わたし達は尙この外細々したいくつかの要素を數へ上げることが出來やう。例へば、

父と母との喧嘩はどんなに子供の心を暗くすることか。

母が始終女中に小言を言ふことがどんなに子供の心を暗くすることか、等々。

もしあなた方が子供の心を明るくさせておきたいと思ふならば、あなた方自身の心持ちを常に明るくしてゐて下さい。

子供の心に強い刺戟、或はショックを與へるな。それが喜びの刺戟であつても、強過ぎる喜びの刺戟は屹度その反動をもたらすだらうから。日曜日には必らず遊びに連れて行くといふことを定めてしまへば、子供たちは日曜以外の日をつまらなく感ずるだらう。

子供の心を始終明るくさせておくといふことは、子供を始終有頂天に狂喜させておくといふことではないのです。平和に安心させておくことです。重要なのは積極的な喜びではなくして安心と滿足の狀態なのです。

第六課　子供の感情を社會的に指導せよ

子供の感情生活は社會的に、つまり周圍の大人や友達とのさまざまな社會的經驗を通して指導されねばならない。子供はそれによつて正常な社會的適應といふことを學びとらねばならない。もし社會的な經驗を通さないで、子供の感情生活を兩親なら兩親の考へだけで一途に指導しようとするならば、子供たちの感情生活はきつとどつちかの方向へゆがんだ形をとつて發達するだらう。私たちはさうした場合を子供の清潔感・狡猾・空想癖の三つの生活態度について簡單にお話しよう。ところで、私たちがいま茲にこれらの三つの問題をとりあげたのは別段ふかい用意があつてのことではない。謂はゞ例として擧げたに過ぎないのである。だが、これだけ說明しておけば、賢明なあなた方は屹度その他の生活態度についても適當な指導法を考へて下さるだらうと思ふ。

A　子供の清潔感の間違つた指導

子供がおもてから着物をどろんこにして歸つてきたとき、あなた方は何と言ひますか。「また着物をよごしたのね！」といはゞ汚された着物を中心問題にして叱りつけますか、それとも、「まあ、そんなにどろんこのなりをして、氣持ちが惡くないの。汚いとも何とも思は

ないの？」と、謂はば、子供自身の清潔感に訴へようとしますか？

　　效き目のある叱り方をしたいと思ふんでしたら、この內第一の方法がよいでせう。そして汚して來るたんびに着物をとり代へないのです。汚いままにさせておくのです。子供はやがてだんだんに着物をよごさなくなるでせう。けれども、着物をよごさなくなつたからといつて、子供が清潔といふことを學んだのだと早合點してはいけない。着物をよごさないといふことと清潔感をもつといふこととは小さい子供に於いてはまるつきり別の事なんですから。だから、子供に心から清潔といふことを敎へるためには、着物を汚すなだけでは不充分です。もつと積極的に清潔といふことや、清潔がもたらす快感を敎へなければ駄目です。しかし、どうしたら清潔といふことを子供に敎へそして自覺させることが出來るでせうか。その話をする前に、私達は誤つた清潔の指導法を考へて見よう。

子供に清潔といふことを、最も手つ取り早く、しかも確實に敎へ得る方法は、いはゆる子供を「キレイ好き」にさせることです。それには勿論親自身がキレイ好きでなければいけない。親が日常生活の箸のあげおろしにキレイ好きなところを發揮して見せれば、子供は間もなくキレイ好きになるでせう。いはゆる潔癖になるでせう。しかし、指さきにちよつと泥がついただけでもすぐ手を洗はねば氣がすまないやうな態度や、ちよつとチャブ臺がよごれてゐてももう食事が出來なくなるといつた潔癖を子供に植ゑつけることは、一體、子供に正しい清潔感をもたせることを意味するでせうか。誰でも知つてゐるやうに潔癖は清潔にしてゐるといふ事と同じではない。潔癖はむしろ一種の病的な態度です。潔癖に育てられた子供の話をひとつあげておかう——

『僕が漬物ぎらひになつたのは兩親がさういふ風に躾けたからなのです。何でも三つか四つの時分、僕は兩親がたべてゐる漬物を自分もたべたいと言つたのです。ところが、僕の兩親はその當時の僕の胃袋にとつて漬物が毒だと思つたのでせう。どうしてもそれをたべることを許しませんでした。が、許さないとなると益〻たべたくなるのが子供の人情です。僕はおそらく御飯の度に漬物をせがんだのでせう。そこで、遂に兩親は一策を案じたのです。僕をヌカ味噌桶のところへ連れて行つて「お前のたべたい、たべたいといふお漬物はこんなに汚らしいものなんだよ。匂ひを嗅いで御らん。この匂ひをお前は好きなのかい。この匂ひが好きなら漬物をたべなさい。母さんたちが漬物をたべるのはお藥だからなんですよ——」といつてきかせたものです。ところがこの方法は大變效き目がありました。ヌカ味噌のあの汚らしい有樣を見せつけられ、あの匂ひをまともに嗅がされたため、僕はそれ以來二度と漬物をたべたいと思はなくなつたのです。私の兩親といふのは大變な潔癖屋でした。ですから當時の私も潔癖でした。そこで、漬物は汚らしいものだ——潔癖な僕は到頭そんな風に思ひ込んでしまひ、それからといふものはどんなにしても漬物がたべられなくなつてしまつたのです。』

あなた方はこの青年の告白を馬鹿々々しいこととして嗤ひますか？　とにかく、子供に潔癖を敎へ、潔癖な習慣をつけさせることは清潔を敎へることではなくして、むしろ、一種の恐怖症に子供をとりつかせることに他ならないのです。潔癖な子供は屹度社會生活に於いても躓きがちになるでせう。

子供に清潔を敎へようとして、つぎに誤り易いのは、清潔と美しいといふこととを一緒こたにさせる場合です。而かも美しいといふこととと清潔といふこととの混同は、放つておけば、おそらく九分九厘までの子供がおちいる間違ひだと言へるでせう。實際、日本語にしたところで、キレイといふ言葉はこの二通りの意味をふくんでゐるのだから。けれども、もちろんのこと、清潔は美しいといふことではないし、美しいものは必らずしも清潔とは言へない。子供が汚いものと思ひこまされる一握の泥よりも原色づくめの駄菓子の方がどれだけ不潔であるか知れないのです。あなた方はまづこの二つの事柄を子供に區別させるやうに敎へなければいけない。ケバ〳〵しい色をした毒蛾が有毒なものをもつてゐることを敎へなければいけない。

第三に——例へば、子供にお室を少しキレイに片づけなさいと命令した場合を考へて御らんなさい。子供はとりちらかつた本やおもちやを片隅にキチンと積み上げただけで、キレイにしましたといふだらう。つまり、この場合にはキレイにするといふことは物を整頓するといふこととして考へられてゐるのです。だから、机の上によしんばどんなにほこりが積んでゐても何一つその上に載つてさへゐなければ、子供は平氣でゐるでせう。そしてキレイになつたと思つてゐるでせう。子供にとつては亂雜といふ事が不潔なことと考へられてゐるのです。

こんな風に考へてくると子供に正しい意味で清潔を敎へ正しい清潔觀念をもたせることは決して容易ではないことが判りませう。實際清潔といふことを小さな子供に敎へることは非常に困難なのです。何故なら、清潔といふことは、どつちかと言へばより原始人的な子供には最初から向かない文化的な觀念だからなのです。ですから子供に清潔を敎へるためには、間違つた清潔觀念を子供が持たないやうにすることが大切です。

考へて見ると、一體、私たち大人は子供をつかまへて餘りにしばしば「汚い！」「汚らしい！」といふ言葉を無雜作に吐き過ぎてはゐないだらうか。土をいぢつても汚いといひ、鉛筆をなめても汚いと言ふ。私たちは子供のいちいちの行動を清潔といふ立場から批難し

過ぎるやうに思はれる。もちろん、親たちがさういふ風に言ふのは子供に清潔といふことを判らせたいと思ふからであらう。併しいま言つたやうに、清潔といふ事が子供にとつては少しばかり高尚過ぎる觀念だとすれば、「汚い！」「汚らしい！」と言はれるとき、子供は當然夫等の言葉を大人の考へるとは違つた意味で、受取らずには居ますまい——例へば、子供はそれらの言葉によつて侮辱されたかのやうに感じないでせうか！　假りにもそんな誤解が子供のうちにおこるとすれば、わたし達は輕々しく「汚らしい！」といふ言葉を子供に向つて言ふべきではないでせう。

ところで、子供の清潔感を養ふためには——

1、清潔な日常生活をそれが子供の快感となるまで繼續的に實踐的につゞけること、

2、子供に有毒、有害といふ考へ方を敎へること、

3、清潔が子供の社交生活に於いて缺く可らざる條件の一つであることを自覺させること。

B　子供の狡るさについて

狡るい小賢しいそして要領のいゝ子供と、どつちかと言へば少しばかり間のぬけた感じ

さへする鷹揚なゆつたりした子供と——あなた方はどつちがおすきですか。あなた方の子供をそのどつちに育てたいと思ひますか？

詩人や僧侶たちはよく子供のことを神樣にたとへ、子供の天眞爛漫をこの世の人間の姿のなかで一番けがれないもののやうに說きたがる。けれども、一體子供といふものはそんなに文字通り邪氣がなくて、その行動や言葉に於いてそんなに天眞流露なものであるだらうか。たしかに、子供は一面に於いてどんな大人にも持ち合せのないやうな天眞流露を持つてゐるだらう。だが、決して子供の全ての行動や生活がけがれない、そしてたくまざる天眞の流露といふことは出來ない。子供はその半面に於いて大人の持ち合せてゐないやうな狡るさや横着さを持つてゐる。

例へば、子供は日常生活に於いていつも一番手數のかからない從つて一番容易な途を步まうとしてゐる。叱られさうになれば、存外平氣で嘘もつくし、都合の惡い質問に對してはそつぽを向いて恬然としてゐるといふのが子供ではないか。おまけに、子供ほどあまのぢやくな人間はないとも言へる。どうして全ての子供に狡猾や詐欺の影も形もないなどと言へよう。子供はもちろん惡魔ではないかも知れないが同時に決して神樣でもない。子供は狡るい人間である。子供のもつてゐるかうした狡るさについては、どんなに甘い兩親でも既に充分氣がついて居るだらう。ところで、一體この子供の狡るさに對してあなた方は平

常どういふ態度をとつてをられるか？　それを少しでも治さうと努めてをられるか？　普通兩親はこの子供の狡るさに對して二樣の態度をとつてゐる――

1　子供の狡るさが直接兩親の威嚴を傷つけたり、その自尊心に觝觸したりすることがない場合には、大概の兩親はその狡るさを笑つて濟ますのである。いや、笑つてすますどころか、時には「仲々要領のいゝやつだ！」などといはゞ子供の奸智を褒めそやしたりするのである。そこで子供が圖にのつて益々狡るくなるのは言ふまでもない。

2　だが、子供の狡るさが一度あなた方兩親の威嚴に直接關係するやうなことであつたり或は又お菓子やおもちやのあなた方との取引きに於いてその狡るさが露骨に用ひられたりした場合には、あなた方は今度はムキになつて「何て横着な奴だ！　こいつの狡るいのにはあきれた！」などと批難するのである。

けれども、あなた方のかうした二樣の態度はもちろんよろしくない。狡るいといふことが子供のうちに養はれてはならない惡德だといふのであつたら、あなた方は如何なる場合にも子供のずるさを許してはならない筈である。

子供が狡るく或はこすつからくなつたのは、言ふまでもなく、あなた方のせいです。あなた方大人があなた方の氣まぐれで子供の狡るさを大目に見て來たからこそ、子供は狡るくなつたのです。その證據に子供がずるいことをしたり言つたりする過半の場合は、あなた方を相手にする場合ではないでせうか。子供が子供同志で遊んでゐるときは、お互ひに最も峻烈にこの狡るさをとがめ合ひます。子供は自分と同じ相手によつて狡るい事をされるのを心から憎みます。子供の喧嘩の原因は、大半、「狡るい！」「狡るくない！」といふことです。つまり、子供同志でゐるときは狡るいことは一切禁ぜられてゐるのに、大人と交渉し取引きしてゐるときだけ多少の狡るさが許されるからこそ、子供の狡るくなつたのはあなた方のせいだといふのです。

子供の狡るさは大半意識されたものです。子供は決して無邪氣に狡るをきめこむものではない。これは狡るいことだと知りながら狡るいことをするのです。だが、何故そんなに子供は狡るいことをしたがるのか。言ふまでもなく、この方法が一番彼等の生活には都合がよいからなのです。子供の狡るさは利害得失の打算から生れたものです。だから、子供同志で狡るいことをとがめ合つたとしても、まだそれは正義感から出て來たものではなく、利害得失の打算から出て來たものに過ぎないのです。

太郎なら太郎がその兩親や大人との生活に於いて狡るいことをすべてとがめられなかつたとする。そして更にこの太郎はお友達との社會生活を殆んど積極的に營む機會を與へられなかつたとする。この太郎はどんな人間になるでせうか。もちろん、太郎は狡るいことを以て生活の原則とするやうな人間になるでせう。それが昂じては不良兒といはれる子供にもなるでせう。そこで、子供の狡るさを治すためには——

1　早くから正しい社會生活、特に對等の社會生活をいとなませること。

2　それからいやしくも狡るいと思はれるやうなことを一切幼兒のうちから許さないこと

です。

ところが、このうち第二の方法は決して口で言ふほどに容易(たやす)くは實行されないのです。たとへば、おんぶをしてもらひたいとき下駄が見えないといふ子供、お菓子屋の前を通るときにあるお菓子を指さして「あれ、なあに？」といふ子供、歩きたくなくなると「おんぶしてくれ」と卒直に言ふ代りに默つてしやがんでしまふ子供——かういふ子供の可愛らしい狡るさをあなた方は嘗てそれが狡るいやり方であるとして一切斥けた事があるでせうか。かういふ間接的な方法の前には親や大人はすぐ參つてしまふものです。けれども、も

し子供をあくまで狡るくない人間に育てたいと思ふのであつたら、あなた方はこれらの可愛らしい狡るさをも最初から許すべきではないでせう。子供の性癖も習慣も決して一朝にして出來上るものではないのですから。

天眞爛漫といふことは卒直といふことです。もしあなた方が本統に子供を天眞爛漫にさせておきたいと思ふのであつたら、子供の卒直さに對しては卒直を以て常に報いることを忘れては下さるな。

C　子供の空想癖について

もし、子供に空想力がなかつたとしたら、子供は他人(ひと)の立場に身をおいて他人を理解したり同情したりすることを何時までも出來ないでせう。

けれども、それと同時に、もし子供に空想力がなかつたとしたら、子供はそらぞらしい嘘をつくことも覺えなかつたでせう。

子供は——空想によつて生きてゐる人間です。子供は未來を空想し得るばかりか、現實の現在をさへ空想によつてみたすことが出來るのです。子供の遊びを御らんなさい。子供のおはなしをきいて御らんなさい。全てが空想と想像ではり切つてゐるではありませんか。

子供の感情生活が安定をうしなふのも空想のためであり、子供の感情生活が豐かに發達するのも空想のためです。だから、子供の正常な空想は出來るだけよくこれを指導し伸ばしてやらなければいけないし、子供の異常な空想はなるたけおさへてやるやうにしたいものです。そこで、わたし達はあやまつた子供の空想の場合を少し考へて見ませう。

太郎の家は郊外の靜かな田園のなかに在る。お父さんはそこから毎日會社へ出かけられる。太郎にはお母さん以外に遊び相手がない。そこで太郎は自分で遊び相手をつくらねばならない。最初のうちはおもちやの人形が彼の遊び相手になつた。ところが、この人形は決して太郎の樣に口をきかない。動いてもくれない。太郎にはそれが不滿である。太郎自身の樣に口もきけるし一緒に遊んでくれる相手がほしくなる。そこで太郎は自分の家の近所に丁度太郎の家と同じやうな家庭があると空想する。そしてその家に自分と同じやうな年頃の次郎といふ子供がゐると想像する。かうしていまや太郎には次郎といふ空想上のお友達が出來たわけである。太郎は何時も次郎のことを考へて一緒に遊ぶ。しまひには次郎と一緒に遊んだ話を母親にしてきかせる。母親には何の事だか判らない。だが、太郎の話は馬鹿々々しいと言下に斥けてしまふにはあまりにも生々としてゐる。

太郎は間もなく幼稚園に入る。しかし太郎にとつては幼稚園のお友達と遊ぶよりは、どんな場合にも自分の思ふ通りになつてくれる空想上の友達、次郎の方がずつと親しみが多い。第一次郎は自分に決してさからはないし、自分と同じ調子で何時までも話相手になつてくれる。喧嘩

をしても次郎は必らず負けてくれる。そこで、太郎は現實のお友達をさけて庭の片隅で相變らず次郎と遊ぶことを止めない。あるひは又お友達が庭へ出て遊んでゐる時には自分だけ室に居残つて次郎と遊ぶやうになる。かうして空想と夢の世界がいまや現實の世界をねぢまげ驅逐してしまふ。

この太郎のお話は外國の書物からとつて來たものであり、空想癖の強い子供の代表的な場合である。だから、もちろん、あなた方の子供のなかにはこの太郎のやうな病的な子供はゐないでせう。併し、あなた方の子供が獨りごとを言つて遊ぶとき、お友達と一緒に遊ばないで自分獨りでクルクル幾時間も遊んでゐるとき、子供は程度の差こそあれ大體この太郎と同じやうな心境に居るのです。少くともおとなしく獨りで遊んでゐる子供は多少ともかうした狀態に入つてゐるのです。もしあなた方の子供が獨り兒であつたとしたら、かういふ空想癖におちいる危險は一層多いのです。

不良兒といはれる子供は一般に意志が薄弱だとされてゐる。けれども、本統は意志が薄弱なのではなくして、空想力が强過ぎるのである。空想力が强過ぎるために現實の生活をコツコツと歩むことが出來ないのである。そして、空想力が强過ぎるために、現實の社會生

活に對して正常に順應して行くことが出來ないのである。

子供の强過ぎる空想癖はどんなにしても治療してやらねばいけない。もつと彼の感情を着實なものにしてやらなければいけない。けれども、どうしたらこの感情生活のゆがみを治してやることが出來るか。

空想癖を治してやるためには、現實の生活をもつと着實に營ませるより他はない。現實の生活をいとなませるといふことは、現實の生活をありのままに割引きしないで——例へば甘やかさないで——營ませることである。そこで、現實の生活を少しも甘やかさないで子供に與へるものがあるとしたら、それは結局子供——つまり友達以外にはないでせう。實際、彼に必要なものは小言や叱責ではなくして、幼稚園や小學校もその延長であり擴大であつた筈です。

お友達であり、**社會生活**なのです。

第七課　子供の社會生活への用意

あなた方は子供が毎朝學校（又は幼稚園）へ出かけてゆくとき「行つてまゐります」といひ、歸つて來た時「只今」といふのを、たゞそれだけのこととして濟んだものと思つてゐられますか。屹度子供の顏色や身體の樣子について、それとなく注意なさつてゐるでせう。少しでも子供の元氣がいつものやうでなかつたら、「どうかしてゐるのではないか」と案じて、子供の額に手を當てて見るくらゐのことはなさるに違ひありません。しかしいつもと別に變つたところがない限り、あなた方はそのまゝ子供はいつもの通り「勉强」したり、お友達と遊んだりしてゐるのだと考へるより他に所在はないでせう。——いやさうであつてくれればよいと心の中で願ふのみで居られるに相違ありません。

「子供の感情を社會的に指導せよ」と申した意味は、子供にとつて大切なものはあなた方卽ち兩親の愛情や保護ばかりでなく、子供同志の眞劍な遊び、殊に學校のお友達との社會生活であるといふことを本統に了解して頂きたいからです。

ところが、幼稚園はまだよいとして、學校といふところは決してあなた方の家庭をそのまゝ引

き延ばしたやうなところではありません。家から學校までの間には長い道があります。電車に乘らなければ行けないやうな遠い道もあります。そこには行く先き〳〵に色々のものがあります。子供にとつて面白いものもあれば怖いものもあります。少くとも家庭や學校とは全く違つた社會生活が子供達の心身を取り卷いて、何等かの影響又は刺戟を與へて居り、それが子供の目や耳に觸れ、知らないものへの興味や好奇心その他果てしない雜念を誘ひ出す機會となつてゐることは事實であります。家庭の子供が學校へ行つてどんなことを覺えて來るかといふ質問に對して、私達は一體どう答へたら一番適切であらうか。

―先生の敎へて下さる學科や修身の御話か、それとも先生の敎訓以外の社會生活そのものから子供自身學ぶ經驗か。學校への行き歸りに間違ひでもあつてはと、平素用心し慣れてゐる親たちにとつて、更にそれよりも重要な子供の問題がどのくらゐあるかといふことを本統に考へて見る必要はないでせうか。よろしい、そんなことはもう慣つこになつてゐるし、子供も段々と大きくなつたから一々親がついて行かなくても安心であると、あなた方は思つてゐられるに違ひありません。さうです、子供にとつて一番大切なものはあなた方の餘計な心配や取越苦勞ではなくて、今や學校へでも何所へでも自分で出かけて行けるやうな社會生活への經驗であり自覺であつた筈です。

學校の社會生活

「太郎はもうそんな心配はない。尋常四年にもなつてゐるのだから、それよりか學校の勉强が大切なのだ」と、あなた方、殊に太郎の親御さんは仰しやるでせう。ところが、太郎さんには學校の「勉强」以上にやりたいこと、したいことが澤山あるかも知れません。學校の運動場でお友達と話し合つたことについて、あるひは學校の歸りがけにお友達と議論した問題を何とか自分で解決しなければならないかも知れません。それ等は學校の勉强や宿題以上に太郎の心を興奮させてゐるのかも知れない。

若しもさういふ場合があつたとしたら、あなた方は、子供にどんなことを言つてやらうとしますか。別に大したことはない、ホンの子供同志の話題であると簡單に片づけておきますか。それとも、學校の勉强や試驗の方が重要であるから、そんな問題は一切知らぬ振りをして、なるべく子供の氣を紛らさないやうにしなければならぬと決めてかかつて居られますか。

學校から歸つて、直ぐと机に向ふ子供もあれば、鞄を放り出したまゝ、どこか外へ遊びに行つてしまふ子供もある。あなた方にとつてその何れの場合を子供のために「よい」と思ふかは、今茲では申しますまい。何故かといふと、それは我々大人の知つたことではないといふよりも、子供が朝學校へ出かけて行き、午後になつて學校から家に歸ることを繰り

返してゐる間に段々と經驗して、何時ともなく子供の習慣となつたことだからです。さうした習慣が善いか惡いかといふことは今更問題にすべく餘りにおそいとさへ思はれるからです。

それよりも、あなた方に知つて頂きたいのは、一體子供は毎日學校と家庭との間に行き來してどんなことを誰から習ひ覺えてゐるかといふことであります。

「學校のことは家庭ではよくわからない、多分、色々の學科を學び、先生のいふことをよく聞いて、そしてそのまま家へ歸つては復習したり豫習したりしてゐるのであらう。」かういつて何のこともなく濟んでゐると考へられるならば、その間學校と家庭とは至極圓滿であります。しかし、さうであるからといつて、子供の性格がその通り圓滿に發達し指導されてゐるとは限らないといふことをよく注意して頂きたい。その點を平素自分の子供についてよく理解するのは學校の先生よりも親自身であるといふことも忘れてはならぬ。

花子の悲劇

花子は兩親の間に出來た三番目の子供でした。上に高等科の姉さんと尋常六年の兄さんと、下に最近乳離れしたばかりの弟とがありました。花子は今まで末子として兩親からとても可愛がられてゐましたが、その下に弟が出來てからといふものは、近所の同じ年頃の子供と遊ぶのが好きになり、そのうちに待ちに待つた小學校にあがるやうになつてからは、いつも學校のお友達と遊びたくて學校へは喜んで出掛けて行きますが、先生からは何の學科にも餘り興味を持てない、どつちかといふと級のなかでは獨り別な性質の子として取扱はれ勝ちでした。それは花子が特に勉强が出來ないからではありません。頭が惡いからでもありません。「やれば出來る」と始終先生からも言はれてゐるくらゐです。たゞどういふものか教室での態度やお答へが先生には面白く思はれない、といつた具合だつたのです。家ではそんなことには別段何の變りも氣がついてはゐませんでした。しかし花子にして見れば學校よりも何よりも大勢のお友達が欲しかつたのです。ですから、今では花子は自分の家よりも學校へ行つてお友達と遊ぶことの方が好きだつたのです。それにも拘らず、學校の先生からは「學校が嫌ひのやうだ」といつも注意があり、親達はそれを「勉强が嫌ひ」なのだといふ風にとつて、精々復習や宿題をよくするやうに花子にいひ聞かせもし、母親は一人のばあやをつけてまで勉强の手傳をさせたのですが、それに對しても花子は別にイヤがるとか愚圖るとかいふ樣子は見えない。たゞ相不替、花子は先生の前ではハキ〳〵しませんでしたし、お友達からも遊び仲間にされませんでした。

ところがある日一家揃つて夕飯を食べてゐるときのことです。花子の兄が「僕、今度の學藝會に兵隊の指揮官を演るんだ」といつて兩親に學校の催し物のことを誇らし氣に話し出しました。姉も「あたしも出るのよ、そして立派な女王樣になるのよ」といひ乍ら、その身振りをして見せて皆を興がらせました。父親も母親も學校で子供達が揃つて學藝會に出される光景を想つて

非常に滿足でした。

ところが、この時のことなのです、――花子は何を思つたか急に下を向いて默つたきり、箸もとらずにゐるではありませんか。

「花子、お前どうかしたの？　どこか惡いのではないの？……」と母親が心配相に訊きました。皆、話を止めて花子の方を見ました。花子はいきなり立つて、ソッと二階へ逃げ上つて行きました。花子のばあやも心配して、あとから二階へ驅け上るし、母親もそれに續きました。見ると、花子は自分の机に打伏してシク〳〵泣いてゐるのです。

「どうしたんでせう。」――あなた方は花子のさうした樣子からどんなことを想像されますか。勿論お腹が痛いのではなささうです。何か氣に入らないことでもあつたのでせうか。さうです、花子はとても悔しかつたのです、いや悲しくなつたのです。實にそれは花子にとつて生れて始めての「悲劇」だつたのです。

「お姉さまはあんなに立派でおきれいだから女王樣になれたんだわ、お兄樣も男で力が強いから兵隊さんになれるんだわ、……それなのに、あたしは先生に可愛がれない、お教室でもいつも當てて下さらない、あたしばかりみんなに憎まれてゐる……」と。

「そんなことがあるものか、お前だつて勉強してよく出來れば皆さんから大事にされるよ、どうしてそんなにひねくれるんですか……」と母親は花子の身體を抱き起すやうにしましたが、

花子にはもうそんな赤ん坊のやうな、――お乳にばかりくつついてゐる弟のやうな格好をして母親に抱かれたり甘たれたりすることは恥かしかつたのでせう。中々顏を上げず、またも母親の手からくぐり拔けるやうにして獨りで泣きつゞけたのです。

あなた方の家にはまさかそんなひねくれた子供はゐないでせう。しかし萬一にもそんな子供がゐたとしたら、あなた方はどんな風にその子供を處置しようとなさいますか。もしもあなた方が子供の教育について熱心なら、先づ翌朝早速學校へ出かけて子供の受持の先生に會ひに行かうとなさるのも一法でせう。そして學校の先生が平素子供をどんな風に取扱つてゐるかといふことをたゞして見なければ氣が濟まない、もしや同じ我が子に對して不公平な取扱ひをしてゐるのではないか、いや序でに受持の先生がその子に對する點のつけ方に不服のあることも漏らして來ようとなさるかも知れません。しかし本統に學校のことを知つてゐるならばそれも恐らく無駄だといふことをあなた方はとつくに知つて居られるでせう。何故ならば學校といふところは家庭とは丸るで違ふからです。少くとも學校は方方の家の子供が集つて勉强するところであつて、一人一人の子供の性格や心持の問題などを親達の思ふやうに取りあつて呉れるところではないからです。特に學級の兒童は受持の

先生の監督の下に一様に學習し、揃つて勉強する以外子供同志お互にお友達や兄弟のやうな社會生活をし合ふ機會は殆んど與へられてゐないのが當然です。

花子の場合も、全くその通りであつたのですが、不幸にして花子の母親は、主人の手前もあるので勇氣を鼓して、しかし子供には知らせずに、その翌日學校へおそる〳〵出かけて行きました。

先生の立場

「勿論、今度は全校の生徒の學藝會ですから町の名士や大勢の父兄も來られますので、出來るだけ立派にやらせたいのです。何にも花子さんを獨り除け者にした譯ではありません、しかしあのお子さんが出ると、折角皆んな氣の合つた童話劇が拙くなつてしまふと思ひます。もつと平素ハキ〳〵したお子さんになられたら、この次の機會にはあのお子さんもお姉さんやお兄さんのやうに何かの役を持てるやうになれるでせう。」

かう先生はいつてから、更に嚴かに花子の母親に注意を促しました。

「一體そんなことについてお子さんが學校の取扱方を公平とか不公平とか家庭で言ふといふのは、餘程ひねくれ者なんですネー。實は花子さんは教室でも常にさういふ風です。その點、學業の成績以上に性格の問題ですから、御家庭で充分氣をつけて頂きたい。」と。

學校の先生から見れば確かに花子がそんな子供としか思へない理由はいくらでも算へ上げることが出來たでせう。だから言はないことではないのです。受持の先生は、一般に學校は家庭の延長だといふ風には考へないのみならず、却つてどこまでもあなた方卽ち家庭の親達の愛情にほだされない公平無私な教育を天職と考へてゐられるのです。その上、困つたことに、學校の先生は大勢の兒童生徒の授業や時間割について非常に忙がしい、そのことで毎日少しも餘裕なんかないのです。どうして花子のやうな場合を一々考へてやつてゐられるものですか。そんな風に學校を批評することさへ子供のためにならないといふことを今日の親は皆知つて諦めてゐるのです。

それよりも花子がお友達と遊びたかつた譯を、今一度飜つて考へてやつて見て下さい。教室でハキ〳〵せず、先生に對して親しめない理由を今一度花子の心持になつて考へて見て下さい。もしかすると花子は母親に愛されないのではないでせうか。そんな筈はないと、賢明なあなた方は仰しやるでせう。さうです、少くとも花子の母親は子供にかまけます。それ故にこそ、大變花子のことを心配し、今も學校の受持の先生に伺ひに來たところだつたではありませんか。それとも花子はどこか世間に對して負目でもあるのでせうか。例へば片輪だとか、不具だとか……。もしもさうであつたら、それは確かに「悲劇」です。お友達とやたらに遊びたくなつた

り仲間に入れて貰ひたくなつたりして、而も皆なから何となく除けもの扱ひされるやうに思つて來たことは、さつき「お姉さまはキレイだから女王様になれるんだわ……」といつたりした言葉からも察せられるやうな氣がします。

親の身になれば、花子がそんな不幸な子であればあるほど、一層注意して取扱はうとしたに違ひありませんが、幸ひに花子には今までそんなことを氣にするやうな必要は起つて來なかつたのですから、それも別に問題にはなりますまい。しかし實際において、こんな少さなこと、何んでもないことと思つてゐるうちに、親の期待に反して、子供の性質が兄弟姉妹とはまるで違つて來たやうに驚かされる場合もありませう。それは物心つき始めた子供、言ひ換へれば子供がお友達と一緒に無邪氣な社會生活をするやうになつた頃に、子供心に人知れぬ劣等感を懷くものであるといふことです。親はさうした子供の劣等感を幼い心の中に起させないやうに常に適當な用意をしてやらなければいけない。

特にさうした場合、學校の公平無私は、子供の自然な社會生活の發達にとつて、必ずしも本統の公平無私とはならないのみか、却つて先生の心なき依怙贔負の原因ともなることが少くない。出來るものは益々優越感を、出來ないものは益々劣等感を――かくして學校の一視同仁が非常に子供の愛情をヒネクレさせて仕舞ふこともあります。子供が求めてゐるお友達さへも、終には心の内で憎み恐れる競爭相手となるといふ場合がないとはいへません。

ん。さうであればあるほど、家庭では、子供への愛情を公平に取扱はなければなりません。

最後に花子の場合は、別に顔形に負け目があつたといふのではなかつたが、而もそれよりもものつと悲劇的であつたことを發見することが出來ました。

それはかうなんです。

花子が末子として可愛がられてゐるとき母親は姙娠しました。そして赤ちやんが生まれました。花子は赤ん坊の生まれることを非常に喜びました。兄も姉も學校の勉強で忙がしく、年齢も花子より上で花子の自然な遊び相手とはなつて貰へませんでしたから、花子は弟の出來たことを何よりも嬉しく思つてゐたのです。

ところが、母親は赤ちやんが生まれると、もうその赤ちやんのそばにつきつきりで、花子のことはばあやに預けて殆んど構はなくなつたのです。

それぱかりでなく、花子が少しでも赤ちやんと一緒に遊んでやらうとしますと、「花子はもう大きいんだから獨りでお遊びなさい」と、いつも母親から叱られることも度重なりました。花子にとつて、それがどんなに悲しかつたか知れません。しかし花子は、小さな弟をお相手とする代りに、近所に一人のお友達を見出して、よくそのお友達の家へ遊びに行きました。そのお友達と一緒に遊んでゐるうちに、終に小學校に上るやうになりました。

花子は小學校で澤山のお友達と遊べるのを何よりも樂しみにしてゐましたが、學校は花子にとつて、その最も樂しみにしてゐたやうな社會生活の場所ではありませんでした。

あなた方は、この花子の「悲劇」といふものがどんなところから起つて來たのかといふことを大體御了解なさつたことと思ひます。これは勿論、小さな例かも知れません。しかも、それに似た例は世の中にはいくらでもあります。いや、それが餘りにも普通一般なことがらであるだけに、子供の問題は親にも先生にも中々理解されにくいのかも知れません。

學校で子供は何を覺えて來るか、そして色々の學問や技能を勉强してどんな人間になるか、さうした親の期待を裏切つて意外にも一生の運命を決するやうな問題が足元から起つて來るやうに思はれ、學校の先生に相談に言つても結局無駄足をするどころか、却つて一層子供と親との惱みを深めるやうな結果になる場合が、どんなに多いかといふことをよく考へて置きたいと思ひます。所詮、子供の社會生活を、從つてその一人一人の個性を圓滿に導くか不幸におとしいれるかといふ最初の鍵は、矢張り親子の感情生活の中に發見される極めて些細な問題であるといふことを申し添へておきたいのです。

第八課　母親への手紙

愛する母親よ！

わたし達がいままで幾つかの課にわけてお話してきたさまざまな注意や子供の感情の取扱ひ方が多少ともあなた方の參考になることが出來、それによつてあなた方の子供の感情生活が素直にそしてのびのびと指導されて來たとしたならば、あなた方の子供がいまや青春期の戸口に立つてそぞろな異性への意識に目ざめかけてきたとしても、あなた方は一應安心してゐてよいでせう。なぜなら、他のすべての感情生活が穩健（おんけん）にいとなまれ、親に對し、兄弟に對し、友達に對し、子供が正しい愛情と分別を持つてゐるのに、性的な意識や感情についてだけ、その感情が特別奔流のやうに荒れ狂ふといふやうなことはまづあり得ないと考へられるからです。實際、他の愛情生活がやすらかな幸福にひたされてゐるにもかかはらず、性の感情だけが、それらの安らかな生活の調子を全部狂はしてしまふほどに、突然奔騰（ほんたう）するといふやうなことがどうしてあり得やうか？　性の意識や感情は決してそれほど一種特別な暴力的なものではありません。性のめざめがいままでの規則正しい生活の

波を一擧にして破壞し去つてしまふかのやうに考へるのは、大人だけが知つてゐる狂ほしい性的感情や經驗をもつて子供のそれを考へた結果に過ぎないのです。性のおとづれは最もしのびやかな、ひそやかなものです。だから、他の愛情生活が正常な雰圍氣のなかに包まれてゐるかぎり、それらは屹度めざめかけつゝある性の意識に對して堅固な防波堤となるに違ひありません。性の教育は幼時から行はれねばならぬと言はれるとき、その意味はなにも小さい時分から性について教へよといふことではなく、いま言つたやうに、早くから正常な感情生活を營ませるやうに指導せよといふことに他ならないのです。ですから、本統を言へば、これからお話しようとする性教育の問題は、あなた方の子供がさうした惠まれた愛情生活の所有者であるかぎり、特別必要のないことだとも言へるでせう。事實、あなた方は子供のなかに芽吹きつゝある性の感情をそんなに怖れたり大騷ぎしたりする必要は毫末もないのです。まして、それを怖れるのあまり、無謀にもそれを頭から抑へつけて了はうとなさる必要などは少しもないのです。自然は、子供の發育に關するかぎり、あなた方御兩親よりももつと賢明なそしてもつと力強い指導者なのです。けれども——

愛する母たちよ!

一方から考へると、わたしたちは子供のなかにしのびやかに伸びつゝある自然の感情、つまり異性への意識を到底自然のままに放任しておくわけにも行かないのです。考へても御覽なさい。今日のやうにあらゆる強い刺戟——特に強烈な性的刺戟が新聞を通し映畫を通し街路を通して子供の日常生活の周圍に押しよせてゐる時に、どうして子供のなかのこの自然の力を自然のままに放任しておくことが出來るでせう。自然のままに放任しておくことによつて、不自然な早熟や歪みが生れでてくることは明らかです。子供たちは夫等の刺戟から護られねばなりません。たとひ子供がどんなに正しい感情教育をいままで受けて來たとしても、もしあなた方がこれらの刺戟から子供たちをいま適當に護つてやらなかつたとしたら——そこは、多感な子供のことです。どんな間違が起らぬとも限りますまい。またかりに、あなた方の子供が學校生活の間は幸ひにもあなたのよき指導のもとにさうした間違ひを何ひとつ起さなかつたとしても、もしその時代に一切かうした誘惑から目かくしされてゐたために、却つて一本立ちになり自分の金を持つやうになつてから一氣に異性との問題で身をあやまつやうなことがあつたとしたら、どうでせう。決して世間に稀な例ではありません。堅固な學生時代から放縱な獨身生活に急角度に轉落したやうな不幸な若

者たちの例は屹度あなた方の身邊に一つや二つは直ぐにも思ひ出すことが出來るでせう。かう考へて來ると、性の教育と指導は絶對に必要なのです。不吉な豫想をあなた方の子供についてするやうに取られては何ですが――近頃の性的犯罪のこの夥しい氾濫はどうでせう。しかも――

親愛なる母達よ！

學校の修身も倫理もこの問題については口を拭つて一語も語らないのが普通なのです。なるほど生理學は教へるでせう。けれども、子供たちが漸く自覺し始めつゝある異性への愛情の心理や生理については遂に默して語らないのです。學校の修身だけでは所詮は不充分です。而かも學校がかうした狀態であるのに、もしその上あなた方がこの問題について少しも教へなかつたとしたら、一體誰が人間生活のこの大きな問題について子供たちを導くのですか。文學や小説類ですか？　おそらく現在ではこれが性や愛情についての唯一の指導者であるでせう。けれども小説のなかに描かれたあまりにも浪漫的な愛情の表現について、もしあなた方が適當な補註を加へなかつたとしたら、子供の海綿のやうな感情は屹度それを過度に或は歪んだ形で吸ひ取つてしまはずには居ないでせう。必要なのは愛情の

激情的な浪漫的な解釋でもなければ、乾からびた生理學の一章でもない、正常な平凡なそして平和な愛情生活の知識と指導なのです。既に性を知つたものにとつては、文學はその性知識に藝術的みがきをかけるのに役立つでせう。けれども、子供たちはまだ性を知らないのです。性の嚴肅な事實を知るまへに、子供たちが性の浪漫的な表現だけをしか學ばないとしたら、子供たちは恐らく「空想」のとりこになつて了ふでせう。あなた方が戀愛の文學を子供たちに許すことは、許さないことよりも良いでせう。併し戀愛の文學を與へるだけであなた方が何一つ正常な指導をしなかつたとしたら、子供たちの戀愛感情はあまりに空虛な輕卒な花をしか開かないでせう。それでも尙、知識生活の指導は學校の先生に、愛情生活やそれを中心とする人間生活の指導は小説家に――といふ風にあなた方は何の躊躇するところもなく、わが子のために決定してしまひますか？

あなた方がこの問題について何一つ積極的な指導を子供に與へないときには、子供たちは女中や召使からそれを學ぶかも知れないのです。それで宜いのでせうか？「書き方」のやうなほんの小手先きの問題についてさへ嘗てあなた方は自身手を取つて子供に教へたではありませんか。戀愛や性や結婚の問題は「書き方」よりも重要な問題ではないのでせう

か。どうぞ健全な常識で判斷して下さい。更にこの問題についてあなた方が全然口を緘してゐるとすれば、子供たちは彼等の間で、つまり友達からそれを敎はるでせう。けれども一體友達が正しい知識をそれについて敎へ得るとあなたには考へられますか？　冗談ではない！　あなた方兩親の全部が全てこれをその子供に敎へなかつたとしたら、その友達はどこからそれらの知識を仕入れてくるでせう。またしても、新聞と映畫と小說がその無責任な敎師になるより他はないでせう。こんな風に考へてくると、あなた方の子供のなかに日一日とめざめつゝある異性への思慕の問題について、あなた方の子供に敎へ得るものは——あなた自身をのぞいたとしたら——結局、子供自身のもつてゐる本能の手さぐりか、猥雜な巷間の凡ゆる種類の刺戟以外にはないと言はねばなりますまい。親愛なる母よ！　巷間の刺戟と子供自身の本能のめざめと——あなた方はこれだけに賴つて安心し切つて居れますか？

愛する母親よ！

性についての悲しき無知から若くして過をおかした戯曲のなかのある少女はその母親に向つて言つたではありませんか、「あ、お母さん、なぜもつと早くおつしやつて下さらなかつたのです？」。とあなた方が心底から子供の將來のことをお考へになつてゐらつしやるのでしたら、どうぞあなた方の子供をしてかうした悲痛な詰問をかりそめにもあなた方に向つてしなければならぬやうな羽目におとし入れないで下さい。さうなつてからでは、もう萬事はおそ過ぎるのです。火の傍へはよるな！　河つぷちは行くんぢやない！　かつてあなた方は子供のいちいちの行動についてあれほど熱心に注意して來たではありませんか。それだのに火よりも河つぷちよりももつと危險な——さうです、いはゞ人間生活の深淵のまへにいまやあなた方の子供が歩一歩あぶない足取りを進めようとしてゐるのに、あなた方はそれに對して何ひとつ警告も注意も與へようとしないのですか？

親愛なる母よ！

あなた方がさうした事について子供に敎へようとしないのは、一體、敎へる必要はないとハッキリ考へてゐらつしやるからなのですか、それとも敎へようにも敎へようがないと困つて居られるためなのですか。もし後の方であつたとしたら、眞劍に考へて下さい。もし前の方の場合であつたとしたら——いや、敎へる必要がないなどとあなた方がいま更言はれる道理はありません。現にあなた方はそれについていままで多少とも敎へて來た筈で

す。あなた方の子供がまだ小さかつた時分、猥らな言葉を弄んだとき、あなたは屹度それをたしなめられたでせう。或はまた、あなた方の子供が例へば無心に可愛い〻オチンチンをいぢつてゐるのを見つけたとき、あなた方はきつとかう言はれた筈です「そんなことはするものぢやありませんよ」と。して見れば、いま更それを教へる必要の有無を事新しく考へ直されるまでもないことです。あなた方は知らず識らずのうちにいままでも教へて來られたのですから。けれども、本統のことを言へば、この「知らず識らず」がいけなかつたのです。算術を教へる場合のやうに、組織だてて一度も教へようとなさらなかつたことがいけなかつたのです。いまこそ、あなた方はそれを組織立てて教へるべきときです。「教へようにも教へようのなかつた」ことを教へねばならないときなのです。

愛する母たちよ！

とにかく性の問題について上手に教へることが出來たとしたら、教へた方が良いのだといふ最初の結論にあなた方が心から同意して下さつたものとして話を進めませう。そこで問題は教へ方の如何といふ事なのです。あなた方は教へようにも教へようが判らないと言はれました。だが、何故この問題についてだけそんなに教へ方が判らなかつたのでせうか。

あなた方がこの問題について教へにくいと思はれる理由は二つしかない筈です。一つはあなた方自身性についてあまりよく知つてゐないといふこと、第二は知つてゐてもそれをフランクリイに語れないといふこと、のふたつです。そしてこれはふたつとも大變ありさうなことなのです。なるほどあなた方は性を經驗しました。併し經驗したことは知つてゐる事を必らずしも條件とはしません。あなた方はやはり本統は性について正確に御存知ないのではないでせうか。性に關するかぎり、兩親の知識はどうかすると偏つたものになり勝ちです。例へば、避姙といふやうな事については隨分よく知つてゐる、或はまた性の技巧については知悉してゐる——しかし肝腎の性生活全體の構造についてはあまりよく知つてゐないといふやうな場合が相當多いのではないでせうか。かうした偏つた知識をしか大人が持つてゐない場合、どうして正常な知識を子供に與へることが出來るでせう？　教へるものはまづ教へる事について知つてゐなければいけない——この馬鹿々々しい程明白な公理がいま更言はれなければならないのは獨り性教育の場合だけではないでせう。あなた方はいままで隨分ながいあいだ食物の化學的性質をまるつきり知らずに食事をされて來ました。が、丁度それと同じ樣な事があなた方自身の性生活についても言へないでせうか。あ

なた御自身のためにもまたあなた方の子供のためにも正確に科學的にこの人間生活の重要な部分についての知識をたくはへて下さい。けれども、若しそれらを充分に知つたとしても、尙且つ親として子供に何かしらそれを敎へたくないといつた感情があなた方のうちに在つたとしたら、どうしませう？　おそらくかういふ問題が次に起つて來るでせう。しかし、それは本統はかうではないのかと思はれるのです。つまりあなた方が正確に性について知つてしまへばあなた方はそれについて何等ためらふことなく、但し子供に理解できる程度で、敎へられるのであつて、これについて何かしら感情的に敎へにくいやうに思はれるのは、却つてあなた方が本統に性について知つてゐないためではないかといふことです。あなた方が性について正確な知識よりも浪漫的な或は神秘的な考へをもつてゐられるかぎり、あなた方には敎へにくく思はれるに違ひありません。

親愛なる母親よ！

性敎育の方法について簡單にこれからお話する前に、尙この手紙の最後に一言つけ加へておきませう。他でもない――性の知識に關するかぎり、あなた方の子供のもつてゐる知識を大きく見過ぎないやうに、そして小さく見過ぎないやうにといふことです。子供はまだ性的に成熟してゐないのです。あなた方が性について持つてゐられる經驗を少しも知らないのです。ですから、知り過ぎてゐるあなたにとつては何程かの羞恥なくしてはききえないやうなことでも、子供は存外平氣できいて居れるでせう。かう言つたらかういふ風な性的好奇心を起すかも知れないとお考へになるのは、あなたの疑心暗鬼のせいなのです。性について既に經驗して居られるあなたが好奇心を起すやうなことであつても、子供は存外起さずに聞き流すかも知れないのです。つまり、性について敎へる場合、あなたの經驗を如何なる尺度にもするなといふのです。あなたが子供のもつてゐる性の知識や興味をあなた自身に思ひ合せて過大視するときに、それは敎へにくくなるでせう。けれども一面、もしあなたが子供の持つてゐる性知識をあまりに少く見積り過ぎたとしたら、そして「何もまだ知らないから、いつそこのまゝ知らさないでおく方がいゝ」とお考へになつたとしたら、子供はあなたの知らないうちに、何處からかその知識を、しかも不充分なそして不健全な知識を拾ひとつて來るでせう。つまり、あなたが子供のもつてゐる性の知識や興味を過小視しすぎた場合です。考へて見ると、隨分むつかしいデリケートな問題です。あなた方は性の知識を、子供の心理發達の程度に應じて、多過ぎもせず少な過ぎもしないやう

に、而もデリケートな方法を以て教へなければいけないのです。それは困難です。しかし、あなたがたの愛と決意はこの困難を征服することが出來るでせう。

あなたの親愛なる友より

第九課　性的好奇心の意味

すべての知識とおなじに、子供の性についての素朴な興味や知識もまた、それに對する好奇心からはじまる。しかもこの性に對する子供の好奇心は、他のいろんな物に對する好奇心とちがつて、一回かぎりしかおこらぬといふやうな謂はゞほんの氣まぐれなものではない。その好奇心はあらゆる形でまたあらゆる方面から子供を刺戟する。したがつて、一度はそれを誤魔化すことが出來ても、二度三度とはそらすわけには行かない。

あなた方は子供のこの好奇心をどんなものだと考へますか。

またそれをどんな風に處理して居られますか。とにかくこの好奇心を正しく導くことが性教育の第一歩だと言へるでせう。

§1

第一に性的な事柄についてのあなた方の子供の好奇心が決していはゆる「性的な」意味をもつたものでないといふことを記憶せよ。

これは少し考へれば誰にだつて判り切つた事柄である。ところが、それにも拘らず、この簡單な事實を本統に理解し、その理解にもとづいて子供の言動に日常接してゐる大人や兩親は割合

に少い。例へば、親は子供のちよつとした性に關する言葉使ひに對しても極めて敏感であり、どうかすると顔をさへ赤らめる。けれども小さな子供がたまたま性的な事柄について好奇心を持つてゐるやうな言葉を言つたとしても、それは決していはゆる「性的好奇心」ではない。何故赤いバラと白いバラがあるのかときいてゐるのと同じ意味で子供は何故男の子と女の子とがあるのか訊くのである。それは子供がすべての事物に對してもつてゐる好奇心の一種に過ぎない。ところが、それにもかかはらず、子供としてはその普通の好奇心に基づく興味をさも特別な好奇心のやうに大人が早合點するからこそ、問題はこんがらがつて來るのだ。「もうそんな事に興味をもち出したのか？」――といふ風に大人が考へ、そしてそれ故に妙な顔をするからこそ、子供はやがて特別な好奇心を持つやうになるのである。あなた方はまづ性についてのかうした偶發的な子供の好奇心と、いはゆる「性的好奇心」とを一應ハツキリ區別しなければいけない。少くとも、それがどつちの種類の好奇心であるかをその都度に見きはめるだけの餘裕をもつてゐなければならない。この餘裕がないと却つてたゞの好奇心が性的好奇心に發展するのです。

§2

ところで、大人が子供のたゞの好奇心を性的好奇心と早合點したとき、或はまた子供が多少とも本統の意味で性的好奇心を示したとき、大人はその好奇心をあたまからおさへつけようとする。つまり、さうした好奇心をもち出した子供を脅しつけようとする。だが如何なる意味に於いても子供を脅しつけてよく行つたためしはないのである。

子供が性的好奇心を言葉や行爲で示したときに、それをおどしつける親の態度に二種類ある。一はいきなり「バカ！」と怒鳴りつけるやり方、他は「そんな事を言つたりしたりしてゐるといまに立派な一人前の人間になれませんよ」と靜かに――たゞし凄みをつけておどすやり方。だが、惡いことに於いては兩つとも變りはない。前のやり方を使へば子供はもつと強い好奇心をもつようになるし、後のやり方を用ひれば、子供は恐怖心をいだくやうになる。そして性に關して恐怖を與へることは結局また一層強い好奇心を生み出させることに他ならない。だが、子供の性的好奇心と恐怖心とがかうした親の取扱ひ方によつてかたく結びついてゐる場合がいかに多いことであらう。宗教的な家庭に於いては、この傾向は特別強い。子供の性的好奇心を正しく導きたいと思ふのであつたら、かうした取扱ひ方は一切さけて下さい。「これだけが非常に重要なのだから特別訊くのだ」といふやうなハツキリした考へがあつて子供は訊いてゐるのではない。子供は手當り次第に訊くのである。だから、この種類の質問を「きくんぢやない」と脅しつけたり、特別重大な意味をもつてゐるかのやうに考へる親は、實は、見えざる自己の影におびえた親に他ならない。そして終には子供にまで馬鹿にされる親になる。

§3

男女の性別についての好奇心を指導する場合に、特に注意してほしいのはこの區別を例の男尊女卑といふ考へ方に結びつけないやうにすることです。

性別についての好奇心と男尊女卑といふ考へ方とが何か關係のあるやうに思ふのは少し早まり過ぎてゐるといふ人がなかにはゐるかも知れない。併し決してさうではない。「男のくせに！」「女の子ぢやないか！」といつた言葉は普通早くから子供に向つて濫用されてゐる。もちろんその場合、それをいふ親にとつてはそれはすこしも性的意味をも含まない區別だてであるだらう。けれども、それを言ふ大人や親にとつてそれが性的好奇心の意味を少しも含まないからといつて、これをきいてゐる子供がその言葉のうちから性的好奇心に通ずる何等かの香ひを嗅ぎ出さないと誰が言へよう。だからもし「お前は男の子なんだから！」「お前は女の子供なんだから！」と男尊女卑的な大人の區別立てのなかから子供が性的好奇心の意味での男女別といふことを嗅ぎ出したとしたら、この兩つの者は即座に子供の頭のなかでくつついてしまふだらう。それがいけないといふのである。あなた方が舊式な男尊女卑といふ考へをかりにも子供たちにもたせたくないと思はれるのでしたら、かういふ言葉使ひはさけてほしい。而かもそれは男尊女卑といふ偏見を子供のなかに植えつけるばかりでなく、いま言つたやうに、子供の性的好奇心に對する一種の刺戟にさへなるのですから。

§ 4

子供が最も普通問ひたがる質問は、(一)なぜ男の子と女の子とは違ふの？　(二)赤ちやんは何處から生れたの、といふ二つである。これだけは何卒その答を用意しておいて下さい。

この二つの質問のうち最も熱心に子供がききたがりもしまた重大な意味をもつてゐるのは後の

方の問ひである。ではこの問ひに對してはどう答へたらよいか。第一には科學的にうそいつはりなく答へる事である。これについては「子供の取扱讀本」に於いて一通りのべたから、參照してほしい。で、ここではもう一つ別の答へ方があることをお知らせしませう。少し長い引用文ですが、我慢して下さい——

「赤ん坊はどうしてできるの？　これは極めて自然に子供の心に生ずる厄介な疑問であつて、これが愚劣に答へられるか、賢明に答へられるかによつて、彼等の生涯の品行又は健康が決定されることがある。世の母親が子供を欺かずにこの質問から逃れられると考へる最も簡單な方法は子供に默つて居よ、と命ずることである。……然し母親がこれだけで止めておくことは滅多にない。これは結婚した人の祕密です。小さい子供はそんなことを知りたがるものではありません、彼女はさう言ふであらう。これは母親の當惑を免れるためには甚だ結構である。然しながら、同時に母親は、子供がこの輕蔑的な態度に腹を立てて、結婚した人々の祕密を發見するまではしばらくも止まないといふこと、而して間もなくそれが事實となるであらうといふことを覺悟しなければならない。

私はこの同じ問題にこれとは非常に違ふ答を與へた人の話をきいた。それを諸君にお話ししよう。この答は言行ともに慎しみ深いが、而も子供の幸福のために美德を養ふためには、必要に應じて世の非難に對する間違つた恐怖と愚人の馬鹿な皮肉とを度外視することの出來た婦人の口から出てきたものであるから、ますます、私には印象が深かつた。この子供はそのしばらく前に結石のために輸入管を傷めてゐたのであるが、その小さな結石を尿と共に出したところで

あつた。が、この病氣はもう忘れられてゐた。お母さん、赤ん坊はどうして出來るの？　熱心な子供はかうきいた。坊や、赤ん坊はね、女の人が時には命にかかはる程の苦しみをして產むのですよ、母親は躊躇するところなくかう言つた。愚かな者は勝手に笑ふがよい。無知な者は勝手に驚くがよい。ただ賢者のみはこれより賢明な、これ以上にその目的に適應(ふさは)しい答が見出されるかどうかを研究して見るべきであらう。」（エミイル、第四篇）つまり、ルソーがすすめてゐるこの答へ方は子供の心を「出產の原因の方へ導かずに結果の方に導く」方法なのだ。たしかに、これは適切な方法といへる。それを上手に答へる事によつて母親は自分に對する子供の尊敬と依賴をもつと强めることが出來るかも知れない。

§5

子供の性的好奇心あるひはまたそれから一段と進んだ性の意識は戀愛的な感情のヴエールで包まれてゐないといふことを注意せよ。

これは大變重要なことである。子供の性的好奇心がもし美しい戀愛的な感情でヴエールされてゐたとしたら、子供は性的な好奇心の滿足をおもちやにしたり、面白がつたりしないですむに違いない。だが子供の性的好奇心は露骨であり客觀的である。そしてそれ故に危險がない場合もあるし、またそれ故に却つて危險の生まれることもあるのだ。何故ならさうした性質の好奇心の滿足は感情の快さよりも感覺の快感へと一氣に走り去つてしまふからである。だから、子供の性的好奇心の滿足のさせ方は、科學的な方向をとるか、或はまた嚴肅な感情へと向はせるか

するより他はない。嚴肅な氣持ちに向はせよといふことは、性の事實を神祕的なものにせよといふことではない。おもちやにしたり、面白がつたりさせないやうにせよといふことである。ある人は「赤ちやんはどこから生れたの？」ときかれた場合、これに對しては「雪は空から降つて來るのだ」と答へる時のやうな冷靜なそしてそれについて何等の感情をも伴はない態度で答へたがよいと言つてゐる。もちろん、子供がまだほんの小さくて、それについて疑ひやより以上の問題を持つことが出來ないやうな場合にはこの答へ方でよいだらう。しかし、子供が少し大きくなつて、それだけの答へや答へ方では滿足しなくなり、而かも一方まだ冷靜な科學的な態度を學び得る程に大きくなつてゐない場合には、かうした態度で答へるだけでは足りない。嚴肅な態度が必要である。一體人間の一生のうちで性的好奇心を面白半分に滿足させようとするふたつの時期がある。一つはこの幼兒期・兒童期であり、他は性の經驗を一通りしてしまつた後の中年以後である。だから、もし親がこの中年以後の年齡で一方子供がいま言つた時期に在る場合があるとしたら——いや、「あるとしたら」どころではない、こんな場合が一番多いのであるが——どうであらう。子供が性的な言葉を無責任な態度で放言するとき、何と多くの親はそれを內心座興的に感じながら、單に言葉の上だけで戒しめようとすることだらう。とにかく、戀愛的な情緒を伴はない性の好奇心が常に危險なものになり易いといふことを記憶してゐて下さい。

§6

子供の性的好奇心の表現や言葉が性とは全くかけはなれた意味を持つ場合があることを注意せよ。

たとへば、子供は大人を笑はせたいために、あるひは又大人の注意をひきよせたいために、猥雑な言葉を使つてゐるのかも知れない。少くとも、さうした言葉をいふとみんなが面白さうに笑ふから、言つて見るのかも知れない。あなた方はさうした子供の動機を見拔いて居られるだらうか。もしそれを全然見拔く事ができず、まるで性的な意味をもつてゐない性的好奇心の單なる表現を馬鹿正直にうけとつて、そのやうな取扱ひをしたとしたら、子供は今度こそ本統の性的好奇心を起すにちがひない。

第十課　性についての子供の質問に答へるには

性に關するいろんな事柄について子供が質問した場合、それに對してどんな說明を與へたらよいか、といふことを此處で詳しくお話しようとしてゐるのではない。答の內容についてはあなた方の常識や多少の生理學的知識だけで充分間に合ふだらうとおもふ。ここで簡單にお話ししようとするのは、さういふ答の內容ではなくて、むしろ答へるに當つての親の態度の問題なのである。そして、考へやうによれば、子供の健全な性敎育のためには、內容が少しばかり正確で詳しいことよりも、その話をしてきかせる親や大人の態度の健全さの方がはるかに重要なのである。性について話す親の態度が健全でなかつたとしたら、折角の內容も妙な意味にとられるかも知れないだらう——圖畫や書き方ならば、冗談半分にでも敎へることが出來る。しかし性の問題は決してさうは行かない。とにかくその態度についてお話しよう。

§1

性の問題についての子供の質問には、簡單に、卒直に、卽座に、そして冷靜に答へよ。

性に關する子供の質問への答は簡單であればあるほどよい。子供は決して生殖や出産のむづかしい生理學を知らうとしてゐるのではない。子供の訊きたがつてゐるのは、あゝだ、かうだといふ簡單な返事なり說明なりにすぎない。それをふか入りしてもつと詳細な質問をいやでもしなければならないやうに仕向ける必要は少しもない。だから、答へは簡單でなければいけない。次に、卒直に答へるがよい。「赤ちやんはどこから生れたの」ときかれたら「お母さんのお腹から」と答へればいゝ。「どうして女の子と男の子とがゐるの？」ときかれたら、「猫も牛も人間も女と男がゐなければ赤ちやんは生れない！」と簡單に答へればいゝ。母親が眞面目な顏をして、さきにも言つたやうに、嚴肅に答へるならば、子供はそれについてややこしい疑問を起す前に、赤ちやんをお腹から生む母親の力の偉大さを感ずるだらう。なぜなら、子供に不可解な事實を眞面目に說明してやれば、子供はまづその出來事の偉大さにおどろかされるに違ひないからです。それからその答へは「卽座に」與へられなければいけない。答が卽座ではなく、母親が躊躇したり、顏をあからめたり、口ごもつたりすれば、子供はきつと餘計なカングリをまはすに違ひない。子供が餘計なカングリをまはすやうになれば、子供はもはや母親の言ふことをそのまゝ眞直ぐに信賴しなくなるだらう。それと同じ樣に「冷靜に」答へることの必要は言ふまでもない。かうした種類の問題をきくときだけ母親の態度が冷靜でなかつたとしたら、子供はかならず「何かハツキリ自分には言へない祕密があるのだな」と考へるだらう。子供は敏感な存在である。子供はうたぐりぶかい動物である。そして子供に疑をもたせてよく行つた

ためしはない。「お母さんにきいても答へては下さらなかつた」と考へる事は、子供にとつて大變不幸なことであるといふことを忘れては下さるな。

§2

性についての子供の質問には必らず答へねばならぬ。しかし、決して答へ過ぎる必要はない。

これが算術のやうなことであつたら、少しばかりさきの進んだ問題に對して答へたり、說明してやつたりすることもよいだらう。併し、性に關する質問と算術についての質問とはその意味がまるつきり違ふ。さきのさきまで教へてやる必要は少しもない。性に關する質問には順序があり、この順序は子供の身體の發達に沿つてゐなければならない。十歲の女の子供に初潮のことを教へる必要はない。十歲の少女に初潮のことを教へれば、恐怖心を植ゑつけるだけのことにしかならない。問はれた質問に對してのみ答へること。それ以上の說明はやがて來るべき次の質問までかならず待つこと。人間生活のこの大きな問題を一回や二回のかんたんな說明だけで片づけようとするなどは、あまりにも性急な考へではないでせうか。

§3

あなたの子供が五歲になつても、まだ性に關する何等の質問をもあなたに向つてしないやうであつたら、適當な時期に教へてやる必要がある。なぜなら、それは性に關する出鱈目

な有害な知識に對して子供をまもつてやることに他ならないのであるから。有害な知識をもつて了つてから、それをなほさすよりも、最初から正しい知識を教へる方がよいでせう。但しこの場合にも子供の身體と精神の發達を考慮しなければいけないことはむろんです。

これは大變重大なことです。子供が何時までも性の問題に關心をもたないからといつて、それをいゝことにしてはいけない。ましてそのことを以て、うちの子供は上品でお行儀がよいなどと早合點してはいけない。あなたの子供の知能が普通に發達してゐるとしたら、かうした問題についてあなた方に向つて訊くといふのが當り前なのだから。だから、もし一定の年頃になつても、尙あなた方の子供がかうした問題を少しも訊かなかつたとしたら、それはあなた方の子供の知能が普通よりおくれてゐるか、それとも身體的に病弱であるか、乃至はあなた方にかくれてコツソリさうした事に興味をもつてゐるか、の何れかに他ならない。而もその何れの原因にせよ、それは決してあなた方の喜びとすべきことではないでせう。とにかく、子供たちが年頃になつても尙少しも訊かなかつたとしたら、何かの注意をして下さい。きかないのをいゝことにして、何時までも話してきかせないならば、結局、子供たちは他からもらつて來た好加減な性知識によつてあなた方を惱ますことになるだらう。その時になつてからでは既におそすぎる。物にはすべて時期があり、チヤンスがあるのだから。

§4

性についての子供の質問に對しては親はあらかじめその答へ、答への仕方を用意してゐなければならぬ。

子供の質問は何時どんな場合に發せられるかも知れない。算術の勉强をしてゐる時に算術のことを訊くといふやうにうまい具合には行かない。朝、眼をさましたと思つたら卒然と訊くかも知れないし、御飯の眞最中に「お魚にも男のお魚と女のお魚とがゐるの？」とたづねるかも知れない。だから、親は何時どこできかれても即座に答へられるやうに平常から用意しておかねばならない。かうした用意をあなた方がしてゐない場合には、不意にきかれたとき屹度あなた方は間誤つくだらう。そして飛んでもない返事をするかも知れない。何故なら性の質問は結局子供が自分のことについて訊いてゐるのではなく、あなた方兩親のことについて訊いてゐることに他ならないからです。そして人間はいきなり自分のことを思ひがけない相手からきかれた場合には大概まごつくものに定つてゐるのだから。而も性の質問についてまごついたが最後、それは決してよい結果をもたらさないでせう。

§5

ところで、もしもあなた方が性の事實に關して科學的に正しい知識をもつてゐないとすれば、子供から訊かれる前に、あなた方自身それを知るやうに心懸けねばならぬ。

性教育は本來親自身の問題なのです。だから、理想的に言へば、全ての親は理論的にも實際的

にも性の事實に關して相當正確に知つてゐなければならない筈なのです。が、それにも拘らず、幾人の親が果して本統に性の事實を知つてゐるであらうか？　全ての夫婦が「完全なる夫婦」であるだらうか？　性について普通親たちが持つてゐる知識は迷信を混じた少しばかりの常識に過ぎない。而も性の生活をいとなみながら、その參考書を眞面目によむ夫婦が幾人あるだらうか。あなた方はそれを完全に行ふためにも、そして又あなた方の子供に教へるためにも當然もつと正確に性を知るべきではないだらうか。あなた方が性について正確な知識をもたず、あなた方が子供の時から與へられて來た極く世間的な知識しか持つてゐないならば、結局、あなた方の子供も亦その程度にしか知ることが出來ないだらう。なるほど、あなた方がそれだけの知識で未だ曾て一度も性や戀愛についてあやまちをおかさなかつたとすれば、一應それで充分かも知れない。併し、その知識の不足のために一度でも苦い經驗をもつた記憶があるならば、あなた方の知識、いな子供に教へる用意は決して充分なものとは言へないでせう。

§6

子供の質問に對して好い加減なお伽話を以て答へてはならない。子供は馬鹿にされたと思ふに違ひないからである。

子供が小さい時ならば、お伽話をしてやつてもいゝだらう。しかし、もう他の方面ではお伽話では滿足せず、お伽話がひとつのつくりばなしであることを知つてゐるやうな年頃であるにも拘らず、唯性の問題についてだけ、お伽話をしてやつたとしたら、子供は屹度いゝ氣持ちはしないだらう。むしろ馬鹿にされたと感ずるだらう。だから、お伽話をしてやる位なら、草花の美しい自然科學の話でもして上げなさい。だが、それにしても日本の母親たちは、自然科學に關するかぎり、あまりにも無知である。去年眞白な花の朝顏と赤い花の朝顏とが隣り合はせに植ゑてあつたのに、今年はその種からうす赤い花の朝顏が咲いた——これだけの事を母親は子供に正確に說明してやれるだらうか。母親が性について知るためには母親もまたある程度の自然科學を學ばねばならないだらう。

§7

簡單な答へによつては說明しにくいやうな、つまり、複雜な綜合的な說明をしてやりたいと思はれるやうな場合には、そのために適當な書物、或は自然科學の本を與へるがよい。

しかし殘念なことに日本にはかうした子供にでもよめる性に關する參考書のよいものはあまりに少い。從つて、どうしても簡單な自然科學の書物による他はない。ところが、自然科學の書物は一般にあまり無表情である。早い話が、小學校の理科書をとりあげて御覽なさい。何といふ冷い、何といふこち〳〵の自然が其處に展開されてゐることだらう。この自然科學的無表情だけは何とかしたい。それを何とかするためには母親がまづ知識を持つことが必要なのだ。とにかく、性をこのやうな自然科學的無表情を以て教へようとすることは、性をけがらはしいこととして教へるのと五十步百步である。この素晴しい生物界全體の神祕をその愛憎美醜を超越して多感な子供に教へやうとする位、無意味な努力はない。科學的にといふことは決して無表情

にといふことではない。性は美しいこととしてそして又悦ばしきこととして敎へられねばならない。青春期の研究に於いて一紀元を劃したといはれるある學者は女性の月經を以て開花にたとへてゐる。わたし達はかうした態度を母親たちに望まずには居れない。人生が悦ばしきものであるならば、性も亦當然悦ばしきものでなければならぬ筈ではないか！

最後に親が子供の質問に對して答へなかつたとしたら、どんな結果を生ずるか——

一、子供はきつとこの問題を母親に向つて訊くことは惡いことだと考へるやうになるだらう。

二、「お母さんも知らないのだ、しかしお母さんは知らないといふことを言ひたくないから、答へないのだ」——と子供は考へるだらう。

三、母親が答へなければ、子供は他からその答へをきき出して來るに違ひない。

そして全てこれらの結果は子供の將來の性生活にとつて幸福な條件にならないでせう。

質問に答へてやらなければ、何時までも子供は知らずにゐるだらうと考へたら大變な間違ひです。

第十一課　どんなことをどんな風に敎へたらよいか

性敎育を子供に與へるために特別の時間があるわけではない。更にまたよしんば時間があつたとしても、性の事柄だけを特別切り離して敎へようとすることはよくない。性の問題は子供の日常の經驗と關係させて適當なチャンスに敎へられねばならない。だから、性敎育ほど困難なものはないでせう。併し同時に考へ方ひとつでこれほど容易しいものはないでせう。わたし達はどんな風に敎へたらよいか。

§1

性敎育を受けてゐるのだといふ印象をかりそめにも子供に氣づかれぬやうにすること。

子供が蟲を見てゐるとき、子供と動物園へ行つたとき、そこで最もなだらかな會話の一節のなかに性に關する正しい知識を適當に織り込めばよいのです。だから、子供が性の質問をしたときだけが性敎育の時間ではない。むしろ、さういふ時には出來るだけ早く切り上げる方が好ましい。何故ならさうした時に根掘り葉掘り敎へるならば、子供は性だけを特別興味の對象にするに違ひないからである。性が重大な事柄であるといふことは決してそれを重大さうに敎へなければならぬといふことを意味しない。眞面目に、輕く、そして時には多少のユーモアをさへ

含めて、教へて欲しい。

§2

子供には早くから裸體を示せ。早くから裸體に親しませるやうにせよ。

この方法が健全な教育のために必要であるといふことはいま更説明するまでもないだらう。子供が早くから男女の身體的相異について知つてゐるならば、子供は馬鹿々々しい空想にかられないですむ。少年期の子供を把へる性的空想の大半が裸體になぢまなかつたための空想である場合がどんなに多いことだらう。

§3

性の問題については正しい言葉使ひが必らず必要である。

性に關しては猥雑(わいざつ)な用語が大變多い。しかもこの用語に關するかぎり、大人の用語と子供の用語との間にはそれほど開きがない——例へばマンマといふ言葉と食事といふ言葉ほどには。そこで、大人のあるものは子供の用ひるかうした用語のうちに可憐なエロテイシズムさへ見出すのである。そして面白がるのである。とにかく、猥雑な用語ほど性的好奇心を刺戟するものはない。正しい生理學的用語で言へば何でもないのを、強ひて俗語を使ふところに危險があるのだ。而もかうした俗語に限つて必らずその言葉は餘韻にとんでゐる。性的俗語と似たやうな音の言葉を用ひたとき、子供たちがキヤツキヤツ言ふのは、要するにかうした餘韻のために他ならない。子供ほど言葉の餘韻に敏感なものはない。そして性に關するスラングほど餘韻の多い

言葉はない。性的俗語は絶對に排斥しなければいけない。ところが、性に關する正しい言葉、つまり、餘韻や好奇的な聯想を伴ふことの少い言語ほどわたし達の日常生活に於いて少い言葉はないのである——俗語や隠語があんなにも多いに拘らず。そしてそれがために性に關する言語は普通教養のある家庭の會話からは一切斥けられてゐるのである。だから、性的俗語を退けるだけではまだ決して充分とは言へない。それに代はるべき正しい言語を家庭の會話のなかへも入れねばならない。子供の下品な言葉使ひを親は必らず叱責する。併し同じ事柄に關する上品な言葉をその代りに教へてやる親はあまりにも少い。子供が必要以上に性に關して興味を持つやうになるのもかうした事情がその原因のひとつになつてゐるかも知れない。病氣のやうな生理的現象については相當醫學上の用語や生理學上の用語が正しく用ひられてゐながら、性の問題については殆んど猥雑な用語でもち切つてゐる。正しい教育に於いては、ニヤアニヤアが猫によつて、コンコンが狐によつてあらためられねばならない如く、全ての性的俗語も亦あらためられねばならない。

§4

子供をして動物にしたしましめよ。これほど安全な性教育の方法はないのだから。

子供に動物を飼育させれば尚更結構である。植物の場合にはその性的現象つまり繁殖過程はそれほどハツキリしてゐない。從つて教へにくい。だから動物が一番よい。ところで、動物によつて性教育を與へる場合には、それと同時に、性の現象が動物ばかりでなく、植物にも人間に

も在るのだといふことを必らず知らさなければいけない。わたし達大人はいまでもどうかすると性的衝動を動物的といふ言葉でおき代へる習慣を持つてゐる。そしてそれと同時に、それは人間としては行ふべからざる事柄であるやうに考へる場合さへある。だが、およそこれつ位馬鹿げたことはない。そしてこの馬鹿げた偏見をふせぐためには、動物による性教育を決して動物だけの事として說明せず、それを生物一般の現象として教へることである。この注意さへあなた方が忘れないならば、動物或は又動物飼育による性教育は一番安全な方法となるでせう。

§5

家庭の成立ちを教へよ。家庭はすべて男性と女性とそしてその間から生れた子供から成立つものであることを教へよ。

こんなことをいま更教へる必要はない、子供はみんな知つてゐるではないか——といふ人がゐるかも知れない。併し、それは間違つてゐる。「どうして家にはおばあさんがゐないの?」「どうしてあそこの家にはお父さんがゐないの?」——子供たちはよくこんな風にあなた方に向つてきくではないか。子供にはまだ家庭生活の構造が呑み込めてゐないのである。ところで子供に家庭を教へる場合、全ての親がまづ第一に教へるのはその道德的な方面である。「お母さんのいふことをきくんですよ」「お兄さんにお前なんて言葉を使ふんぢやありませんよ」等々。もちろん、かういふ風に家庭をひとつの道德的秩序として教へることも大切には違ひない。併しこれだけでは決して充分ではない。家庭が子供たちの經濟的基礎であるといふこともむろん知ら

されねばならない。が、それと同時に、家庭が男と女つまり父といふ男と母といふ女を基にして營まれるものであることを教へねばならない。あなた方の子供にとつてごく親しい人、例へば叔父や叔母が結婚するやうな場合、あなた方はそれを簡單に教へることが出來るでせう。世の親たちはどうかすると、父と母との間にいかなる性的關係もないやうな顏を子供の前でして見せたがるものである。併しこんなことはむろんひとつの僞善に過ぎない。晩かれ早かれ祕密は子供にも判るのである。而かももし判るときまでさうした事をひたかくしにかくしてゐるならば、さうして一方に於いては性を以て何か汚らはしい事でもあるかのやうに教へてゐるならば、子供が一旦それを知つた時には、おそらく子供は一擧にして父母の神聖なる價値を疑ひ出すかも知れない。

家庭は性教育のための場所であり、同時にまた最も健全な性教育のための教材でもある。子供の前で家庭から一切性的なものを追放してしまつたとしたら、一體誰がどこで性教育を教へ得るでせうか。家庭生活——さうです、あなた方があんなにも悅ばしい地上の樂園として子供に示さうしてゐるこの家庭生活が性の絆によつて固くむすばれてゐることを教へるならば、子供にとつて性はもはや汚らはしいものとしてではなく、喜びの源泉として考へられるやうになるでせう。そしてその時こそ性教育は最もよく行はれた事になるでせう。

§6

性に關する知識を子供は父と母の雙方から學ぶ必要がある。

これは實に判り切つた事柄である。だが、それにも拘らず、これ程家庭に於いて實行されにくいことはない。例へば、子供が性に關する質問を母親に向つてした場合、ある母親たちは「お父さんにきいて御らんなさい、母さんには判らないから」と返事をする。特に質問が男性に關する事柄であつた場合、母親はそれを父親にきけといひ、女性に關する質問であつた場合、父親はそれを母親にきけといふ。けれども、あなた方は何故そんなにまで子供の前ではにかまねばならないのか。あなた方は最早戀人同志ではない。子供をもつた夫婦が性についてはにかみ、一切言はず語らずの態度をとるくらゐ馬鹿げたことはない。兩親が子供の性教育について眞劍に語り合ひ、また自分たちの性生活について眞面目に相談し合ふやうであつたら、おそらく將來に於いても子供の性的不行跡によつて惱まされるやうな事はないだらう。兩親は子供の性教育に於いて平等の教師にならねばならない。

§7

性を科學的に教へよといふことは、第一に用語の正確さ、第二に內容の正確さを意味し、第三に教へる態度が非個人的であるといふことを意味する。

第一と第二については既にお話した。第三の注意についてだけお話ししよう。性の問題を非個人的に——つまり特定の誰れそれの事としてでなく教へることは最も大切である。誰それの性的惡癖とか、お友達の誰それさんのある種の行爲とかを說明の材料とすることはつつしんでほしい。なぜなら、性は決して一二のそれらの早熟な子供のみがもつてゐる問題ではなく、健康な全ての子供の問題でなければならないからである。性の問題を個人的な實例によつて說く場合には必らず、性はひとつの惡行として、あるひはまた一つの異常行爲として取扱はれるより他はない。だが、性は決して惡行ではない。異常行爲でもない。悅ばしき生の喜悅である。性の問題を說くのに自然科學にたよることは、すなはち、性の問題が自然界の一般現象であることを知らせるために他ならない。

§8

性教育は道德教育であるよりもむしろ健康教育であることを忘れるな。

あなた方は性の教育を道德教育として見ることに重きをおき過ぎてゐないでせうか。そしてそれがために性の教育が健康教育のひとつであることを忘れてはゐないでせうか。もしさうだとしたら、それは大變な間違ひです。身體が健全に發達し、身體生活——運動、食事、排泄等——が規則正しいコースをとつてゐるならば、性に關する事柄も健康の一路を辿るでせう。性の生活を道德の下におかねばならなくなるのは、本統の意味の性生活が始まつてからのことである。性についての身體的條件がまるでととのひもしない前から性を道德的にばかり見たり教へたりするならば、それは結局、不當な罪惡觀か乃至は恐怖を子供の心にうえつけることに他ならない。性は決して道德化されてはならない。

そこで、正しい性生活のための準備には、性以外の健康教育が當然必要なわけです。わ

たし達は次の課で、比較的密接に性に關係した身體活動の教育についてお話しすることにしよう。

第十二課　特に睡眠と排泄についてよい習慣をつけよ

規則正しいそして充分な睡眠と、同じやうに規則正しい毎日の便通とは子供の身體的健康のバロメーターに他ならない。よく眠る子は肥るだけではない。よく眠る子は性についても正しい生活態度を持つようになるでせう。

§1

睡眠と覺醒はひとつの自然なリズムをもつてゐる。大人は大人の、子供は子供のリズムをもつてゐる。このリズムを尊重し、これに從ふこと。

眠がるのを無理やりに起しておくことがいけないやうに、起きてゐたいのを無理やりにねかせつけようとしてはいけない。子供はその身體的發達に應じて睡眠と覺醒のリズムをもつてゐる。このリズムをあなた方はあなた方の都合で亂してはいけない。「何だつてこんなに寢つきが悪いんだらう」「何だつてこんなに何時までも眼をさましてゐるんだらう」といつた言葉をわたし達はあまりにしばしば母親の口から聞かされる。けれども、そんな風にしつけてしまつたの

はあなた方自身なのだ。ねむたくもないのにねかせようとしたからなのだ。大人にしたつて自由に自分の睡眠をコントロール出來ないではないか。況して子供にそれがどうして出來やう。そこで「さあ、オツパイをいぢつておやすみなさいよ」と母親は言ふのである。併し、かうした習慣をつけたが最後、その母親は間違つた性教育を既に與へたと言はれても仕方がないでせう。何故なら、母の乳房がいぢれなくなつたときに、子供は別のものをいぢらずにはねつくことが出來なくなるからです。

§2

寢床へ玩具をもちこませぬやうにすること。早くから暗い室で獨りで眠るやうに躾けること。

寢床は決して遊び場ではない。眠るまへに玩具や本を與へることは、睡眠の寸前に刺戟を與へることであつて、安眠の妨害をすることに他ならない。寢床に行く前の子供の心持は完全にブランクであることが必要なのだ。一日の活動に疲れて文字通り無心にねむらせるやうにしなければいけない。子供が床へ入るや否やすぐグツスリ寢入り、そしてさめたらすぐ起きるやうであつたら、彼は決して寢床のなかの惡い習慣をもつようにはならないだらう。

暗い室で獨りで眠らせることが必要なのは、言ふまでもなくそれによつて本統に安眠が出來るからだ。だが、この習慣は出來るだけ早くからつけさせるやうにしなければいけない。物心がつき始めてから急に獨りで暗い室でねかせようとしたつて出來るものではない。寢室には時計

をおくがよい。チク、タク、チク、タクといふ例の音は屹度子供の心を鎭まらせ、靜かに眠りをさそうに違ひないから。あまりに騷々しい環境が眠りのためによくないのと同じく、音一つしない環境もよくはない。リズミカルな小さな音は子供にとつて最もいゝ催眠藥である。

§3

寢着(ねまき)は軟かなチクチクしない布地をえらぶこと、そして普通の着物よりも幾分ゆつたりと仕立てること。

子供をよく眠らせるための最善の祕訣は、眠るときの全ての條件を何時も同じやうにしてやるといふことです。たとへば、毎日同じ時刻に、同じ室で、同じ寢床で、同じ蒲團で、同じ暗さで、同じ靜けさで、子供をねかせるならば、子供はまもなく眠り込むでせう。眠る時の條件がちがへば眠れなくなるといふのは、それだけ新しい刺戟を與へられるからなのです。託兒所で毎日お晝寢をさせる場合、月曜日が一番ねつきが惡いと言はれてゐます。言ふまでもなく、日曜日の一日がその原因なのです。

§4

まづ第一に排泄が汚らしいものであるといふ考へを親自身清算しなければいけない。そし

て勿論のことかうした考へを子供に抱かせてはならない。

だが一般に排泄は汚らしいものと考へられてゐる。甚だしい場合には、排泄を來客の前で知らせることすら何か失禮の事のやうに考へてゐる。馬鹿々々しい禮儀である。とにかく排泄を汚らしいものとして思ひ込ませることは時ならぬ時に排泄することが惡いことであるかのやうに考へさせることになる。だが、もう此處まで來てしまへば一切はおしまひだ。排泄前後の處置を清潔にしておかねばならないからといつて、排泄を何かあるまじき事のやうに考へるなんて――およそ意味のないことです。

§5

排泄の過程、便通の生理を簡單に子供に説明してきかせよ。

食べ物についてはあんなに口喧しく言つておきながら、排泄については口を緘してゐる親が何と多いことだらう。「そんな物をたべては毒ですよ」と言ふ親はゐても、「どんな便をしたか」と毎日率直にきく親はあまりに少い。だが、むろんのことこれ程片手おちな處置はない。食物は便になるのである。あなた方はそれを知らないのか！

§6

排泄に對しては、しかしながら、出來るだけ清潔にするやう習慣づけよ。

排泄後の身體を清潔にしておかなければ、子供は自然むづがゆさを感ずるだらう。そしてむづ

がゆくなればいやでも手をやらずには居れなくなる。而も手をやればその結果は決してよくない。食事時に手を洗ふ事を教へ、食事を清潔にすることを教へるならば、同時に排泄に對してもこれを行はねばならない。

§7

便所のなかで遊ばせておくやうなことがあつてはいけない。

これは非常にむづかしい。幼兒時代に子供を抱つこして、「チュッチュッがゐるよ」「ホラ、綺麗なお花ね！」などといひながら氣ながに排泄をさせたその習慣が今度は自發的に便所のなかまで持ちこまれるからである。そして一度便所のなかで遊びぐせがついたが最後、子供は排泄の過程を享樂することを覺えるやうになり、これを享樂するやうになれば、自然さまざまな性的惡癖をも覺えるやうになるだらう。子供が「便所のなかだけは誰も見てゐないのだ！」と少しでも考へるやうになつたら、――いや、かういふ風な考へを少しでも抱かせないやうにするがためには、便所のなかで餘計な時間を過ごさせないことが一番である。

§8

が、それだからといつて、排泄の間際まで子供が我慢する習慣をつけてはならぬ。

排泄もまた睡眠とおなじやうにひとつのすぐれてリズミカルな生理的過程である。だから子供はこのリズムに自然に從ふやうに育てられねばならない。小便をこらへる時、子供はかならず

精神的な安定をうしなつてしまふ。これと反對にたへず——例へば三十分おき位に——小便をしたくなる子供がゐる。そしてその場合にも子供は常にソワ〳〵しておちつかない。かうした極端な場合は二つながらさけねばならない。だが、何故子供はかうした排泄の惡癖におちいるのであらうか。精神分析の學者たちは、小便が子供に一種の性的快感を與へるものであると言つてゐる。つまり、子供はこの性的快感を無意識のうちに追求し、それ故、ある子供は三十分おきに放尿し、他の子供は精一杯こらへた後の放尿をたのしむのである。この說明はともかくとして、排泄が子供の精神狀態と强く關係してゐるといふことを理解してほしい。そして子供が一日でも早く排泄を正常に自分でコントロール出來るやうに習慣づけてほしい。

毎日キチンと排泄をし、夜尿をもらしたりしないときには、そのことで子供を褒めることを忘れるな。

しかし、時ならぬ時や飛んでもない場所で、大小便をもらすやうなことがあつてもそのことで子供を叱つてはいけない。叱る代りに喰べ物飲み物について注意せよ。食物のなかにはかならず適當量の野菜と果實を混ずることを忘れるな。

夜尿癖については、わたしたちは「子供の取扱讀本」に於いてもお話ししたが、一言つけ加へておかう。つまり夜尿癖は單なる生理的な現象ではなく、むしろ心理的な現象だといふことである。神經質な子供、劣等感の强い子供、たへずガミガミ叱りとばされてゐる子

供は一層しばしば夜尿をする。子供の夜尿をなほすためには、だから、子供の全生活、或は生活態度を愉快なものにしてやらねばならない。

性に關する注意と同じやうな注意が排泄についても必要である。すなはち、なるべく聯想の少い言葉をえらべ。

第十三課　子供が性的によくない習慣をもつたときには

あなた方が子供の生活全體に適當な注意をはらひ、子供に始終なすべき適當な活動を與へてゐたとしたら、子供が性的によくない習慣をもつやうなことはない筈です。が、それでもあなた方が神様でない以上、あなた方の注意のとどかなかつたフトしたことから子供がいろんな性的惡癖に染まないともかぎりますまい。子供が性的惡癖――といつても一番代表的な一番普通なのは言ふまでもなく自瀆ですが――をもつてゐたとしたらどうしたらよいか。自瀆はどうして行はれるのであるか、それをこの課では簡單にお話ししよう。

けれども、一體それがどんな種類の惡癖にもせよ、それを本統に治させるためには叱責(しつせき)や罰や小言だけでは所詮不充分です。子供自身が自分から進んでそれを治さうと考へてくれなかつたら、つまり、自制心をもつてくれなかつたら、本統に治るものではない。そこでまづ第一に子供が自制心を持つてゐるかどうかが一番重要な點となるわけです。

§1

あなたの子供が食慾やその他の慾望についてどの程度までそれを自ら節制し或はこらへることが出來るかをまづ考へ且つ觀察して下さい。そしてそれからのち、性的惡癖をどの程度まで自制することが出來るだらうかといふことを判斷して下さい。

例へば子供が物をねだる癖を何時もうけいれてやつたとする。言ひ代へればその癖を子供の自制心にうつたへて治してやらうと少しも努力しなかつたとする。ところで一方、性的惡癖についてはこれを默認するどころか一擧にして治させようとあなた方が努力したとする。これは果して辻褄の合つた話でせうか。食慾について自制することを少しも教へないで或はまた訓練させないで、かうした種類の惡癖だけは遮二無二これを自制させようとしたところで、それが出來るわけはないではありませんか。何故なら、ひとつの癖、ひとつの慾望を子供が自ら抑へることが出來るかどうかといふことは、謂はゞその子供のもつてゐる一般的な生活態度の問題なのであつて、それが一般的であるかぎり、性的な慾望についてだけその例外を求めることは無理だからです。アメチョコをほしいと思ひ出したが最後、どうしてもそれをこらへることの出來ない子供が、性的惡癖だけをこらへる事がどうして出來るでせうか。もちろん、大人は性的慾望と他の肉體的慾望との間に容易に自制といふ點で差別をつけることが出來るかも知れない。例へばこれこれの慾望は相當抑へなければならないが、この方の慾望はそんなにまで抑へる必要がないといふ風に。しかし、子供にはそんな藝當は出來もしないし、またしようともし

ないだらう。何故なら子供にとつては慾望はすべて同一の生活的意義をもつてゐるのであるから。そこでもし自瀆といふ性的惡癖を心から自發的に自制させようと思ふのであつたら、子供は他の慾望についても自制することを學ばねばならない譯である。ある慾望をそれが子供の身體に直接害でないからといつて無制限にゆるしておくならば、子供は他の有害な慾望についても同樣のことを望むに違ひない。慾望を抑へるといふ點で性に關する事柄だけを特別扱ひにさせようとするのは、大人の無理であり、とらはれた偏見の產物に他ならない。まづ慾望の自制といふ一般的生活態度をあなた方の子供のうちに確立せしめよ。問題はそれからである。

§2

自瀆がほとんど全ての子供に共通な行爲であることを、そしてまた自瀆が明瞭な性意識を動機として行はれるものではなく、むしろ偶然なチャンスを動機として行はれるものであることを、記憶せよ。

何かの拍子にいぢつて見たら快感を感じたといふのが普通自瀆の動機となつてゐる。もちろん、この他召使から或は年長の友達から教はるやうな場合もあるだらう。併し普通の場合、睡眠の時や排泄の時などが最も多くさうしたチャンスをひとりでに與へるのであつて、その內に子供はハツキリと快感と昂奮を豫想してこれを行ふやうになるのである。更に汗をかいたり、不潔にしておいたりすることも有力な動機となるだらう。だから、どんなに親が細心の注意を拂つても子供は何時かどこかでさうしたチャンスを握るに違ひない。自瀆のチャンスを全然防

がうなどと考へるのは到底人間業では出來ないことである。併し、だからといつて放つておけといふのではない。するよりしない方がよいに定つてゐる。そして親が細心の注意を常に怠らないでゐるならば、今日おこるべきことを明日にのばすことが出來るかも知れない。そして一日でもおくらすことが出來れば、それだけよいのである。ルソーはエミイルのなかで性の自覺は出來るだけおそい方がよいと言つてゐる——早熟の果物がいかに早く腐り易いかといふ例を引いて。だが自瀆が殆んど全ての現代人に共通した現象であることを考へて、それをあまりに神經に病まない方がよい。自瀆をしてゐることを感づいたとき、敏感な親は自分の過去を屹度思ひ出すに違ひない。そしてそれだからこそ親は躍氣になつてそれを止めさせようと努力するだらう。——何故なら、さうした場合に思ひ出されるのは自瀆の快感の記憶ではなへて、自瀆をしたといふことの記憶に他ならないからだ。これは親としてはもつともな事には違ひない。併し、一應冷靜に考へて欲しい。あなた方自身が昂奮してしまつたら、どうしてそれを止めさせる適當な手段をあなた方が思ひつくことが出來ようか？　まづあはてないこと。あなた方の過去の記憶をかたよつて思ひ出さないこと。

§3

自瀆は身體的に有害であるよりも、むしろ自瀆を惡事だと思ひ込ませる方がもつと精神的に有害であることを記憶せよ。

自瀆は惡いことだ、こんなことを續けてをればいまに屹度身體が惡くなる——子供が始終こん

な風に考へながら、而かもそんな風に考へるためにかへつてそれをやめることが出來ない場合——自瀆が子供の生活にもたらす害惡はこれである。それはたへず子供の純潔な心を罪悪の意識を以てみたし、彼の精神を脅迫し、彼を劣等感の所有者たらしめ、友達との交際に於いてはたへず負け目を感じさせるだらう。だから、自瀆の問題で子供をおどかすことは一番よくない。

§4

自瀆は叱つたり說敎したり罰したりすることによつてではなく、それに代るべき何等かの生活の快樂——例へば玩具や運動——**によつて止めさせるようにせよ。**

これは註釋をつけるまでもなく明かなことである。ところで親が自瀆の現場を見つけたとする（勿論、幼兒のことであるが）そんなとき「さういふ事を止めて、これをなさいね」といつて玩具なら玩具を與へるよりも、その問題には一切ふれずに他に興味を轉換させるようにした方がもつと適切である。しかし、それも年齢によつて事情は變つて來る。とにかく、何が理由で子供は自瀆をするやうになつたか——その原因や動機について親は出來るだけ正確に知らねばならない。賢明に推察しなければいけない。所在なさ、退屈がその動機であるのか、肉體の疲勞がその原因であるのか、友達のないことがその遠因になつてゐるのではないか、等々の事柄を一應親は考へてやらねばならない。

§5

品のよいユーモアを子供の生活のなかに注ぎいれよ。

思春期の子供ほど緊張し切つてゐる人間はない。その精神に於いて、その肉體に於いて。特に性的惡癖にとらへられたやうな少年の精神は常に緊張をつゞけてゐる。そしてその緊張はある時は恐怖になり、他の時は慚愧（ざんき）になり、最後に自己反省になり——とにかく絶へず子供の心をかきむしるだらう。これを救ひ得るものはユーモアを措いて他にはない。ユーモアのみが心に餘裕（よゆう）を與へ、とがつた心をやはらかにする。

§6

性の問題については子供を信頼せよ。疑ひぶかくあつてはいけない。

これは親としては實は非常に困難なことである。親が性の問題を重大視すればするほど、一度の行爲をも惡癖と考へるほどに疑ひぶかくなるものだ。けれども、かうした疑惑を——たとひそれを忠告や警戒の意味で與へるにもせよ——かけて、子供がよくなつたためしはない。不良兒に疑惑をかければ、ますます不良化するだけである。だから、子供がもう一人前の判斷を出來るやうになつたら、子供を疑はないで信頼するがよい。親が眞面目な信頼をかければ、子供はやがてその信頼に報ゆるやうな人間になるだらう。少くともならうと努めるだらう。

（尙、物心つきはじめる少年少女のこれらの問題については、「子供の問題全集」中『青春期の問題』を參照してほしい。それはこの頃の氣持ちを親が理解するに當つて相當役立つに違ひないから——）

要するに、性教育といひ愛情の教育といひ、全て人間生活には愛情が最も重大なそして最も悦ばしきものであることを積極的に教へるものでなければならぬ。「あゝしてはいけない」「かうしてはいけない」と消極的な躾けばかりを與へて居れば、子供はひとりでにいぢけて來るだらう。だが、子供をいぢけさせておいて、その上で正しい感情や愛情をもたせようとしたところでできるものではない。而かもいままでの教育に於いて一番缺けてゐたものはかうした正しい愛情の指導といふことであつた。子供があなた方の言葉をいちいち忠實にきくことよりも、あなた方に對して進んで正しい愛情を示し、その愛情によつて彼の行動を自ら正しくコントロールすることの方がどれだけあなた方にとつて仕合せであるか知れない。

いままでの性教育の論者は、どうかすると單に性の問題だけを、つまり愛情の問題をぬきにして、取扱はうとする傾向が強かつた。正しく愛せよと教へる代りに、かうすれば正しく愛することが出來なくなるぞといふ方面にのみ力を注ぎ過ぎたかのやうであつた。けれども、これほど間違つた態度はないかも知れない。人間生活に於いては、彼が正常な人間であるかぎり、性の問題は何時も愛情の問題と具體的に結びついてゐる。だから、愛情—

—わたし達はそれを子供の年齢のいかんによつては、はつきりと戀愛と呼んでもかまはない——をぬきにして、生理的な性の衝動だけを指導しようとすれば、却つてその指導は子供をつまづかせないとも限らないだらう。

子供の道德教育も、性格の教育も、性の教育も、すべて子供の愛情の指導をまつて始めてその生々した積極的な面を與へられるのである。あなた方は一度でもかうした積極的な愛情の問題を子供について考へられたことがあるか。

もちろん、考へやうによれば、子供の場合には、性の問題は生理的な性の問題だけとして現はれるかのやうに思はれないでもない。何故なら、小さな子供の場合にはハッキリした性愛の對象がないのだから。けれども子供が性的關心に捉へられてゐるとき、子供は何かしらその生活に於いて愛情の不足を感じてゐるのではないであらうか。あるひはまた朧げにもせよ、特定の人に對する愛情への飢渇に喘いでゐるのではなからうか。それは少年少女の可憐なロマンチシズムであるかも知れない。しかしとにかく、彼等の性的關心は多少なりともさうした情緒的なものによつて裏づけられてゐるのである。あなた方はそれを早熟といふ生物的な言葉で片づけようとしてはならない。愛情の伴はない早熟などといふも

のはどこを探したところであるものではない。子供の性の場合にも、大人のそれとは多少意味が違つてゐるにもせよ、少からず愛情の問題がそれにまつはりついてゐるのである。だから——

愛情のない性生活が不健全なものであることをあなた方は子供に自覺させねばならぬ。そして更に——

性的感情の健全な悅ばしき滿足が眞の愛情生活には絕對に必要であることを敎へねばならぬ。これ以外に性敎育最高の目的はないのだから。

子供の指導讀本

昭和十一年七月五日印刷
昭和十一年七月十八日發行

定價六十錢

編者　東京市澁谷區代々木初臺町五六二　尾高豐作
發行者　東京市神田區駿河臺三丁目六番地　關根喜太郎
印刷者　東京市神田區錦町三丁目十一番地　白井赫太郎
發行所　東京市神田區駿河臺三丁目六番地　刀江書院
電話神田(三一八九)(三二七一)
振替東京七三一一八

版權所有

佐々木秀一著

教育讀本

清新にして具體的な敍述
現代教育實際の缺陷を指摘し教育向上の契機を說く

特色　師範の新卒業生諸君は、まづ本書によつて教育方法を計畫せよ！
殊に低學年受持の諸君は、本書によつて何處に從來の缺陷があるかを知れ！
若き教師諸君は本書の平易なる敍述によつてのみ教育の新精神を得るであらう！
教師が母に、その讀むべき教育書をと問はれたらば、第一に本書を奬めよ！

見本進呈

四六大判
三〇〇頁

定價一圓二十錢

お母樣方に!!　人生に子供の教育ほど困難を事業はないでせう。若しあなたがお子さんの教育に成功したち、それであなたの人生は充分光輝あるものといふことが出來るでせう。しかし日に新に月に進む子供の教育は一日もゆるがせに出來ません。今日の子供の教育には今日の教育の目指す理想と實際とを知らねばなりません。どこに缺陷があつてあなたのお子さんの成績の良否が岐れるのか。子供のおさらいを見て上げる前に、學校に行つてわが子の教育を參觀する前に、お母樣方は必ず本書を讀まねばなりません。本書は我教育界の最高權威佐々木先生が現代教育の理想と實際とを最も具體的に說かれたものであります。

先生方に!!　新たに師範學校を卒業されて教職に就かれた方、低學年受持の先生方、なべて若き有爲なる教育者諸君は、先づ本書によつて、現代教育の理想と缺陷とを知らねばなりません。どこに缺陷があり、どこに理想があるかを知つてこそ、受持學級の經營に自信と勇氣とを持つて當ることが出來るでせう。本書は、教育方法の根本問題と、各科に亙る教授方法の具體的問題と、家庭と教育、個性と教育、社會と教育は勿論、日本の教育、歐米の教育に亙つて、最も清新に、最も具體的に、而も明解に敍述されたもので、現代實際教育の入門書の隨一ともいふべきものであります。

日本兒童社會學會編

健康教育の研究

背布箱入
本文五五〇頁

定價二圓

保健衛生の國民的指導原理

國民健康の全般的低落を救ふために！
保健衛生を積極的に擴充せしめるために！
學校と家庭に健康思想を普及するために！

健康が吾々社會生活を營むものにとつて如何に重大であるかといふことは、恒に考へられ、恒に研究されなければならぬ問題である。にもかゝはらず一般の家庭は身體の保健方法について餘りに無關心であり、餘りに藥や醫者や宗教に頼り過ぎる。實に自己の身體は自己の精神的自覺によつて科學的に保持され、且つ健康を增進されねばならぬのである。玆に願るものは健康の積極的方策を樹立すべきであり、個人的健康の增進は勿論、社會的健康增進への聲を高めねばなるまい。本書は三十有餘の諸博士諸學者によつて過去の保健衛生の實態を批判分析し、將來への正しき方策を說き盡くせるものである。蓋し國家百年の大計を慮るもの、子女教育の根本的改造を志すものにとつて極めて嶄新なる知識を給與するものといへるであらう。

霜田靜志著

母の書

四六大判
三三〇頁

定價一圓二十錢

子供の指導者としての母に送る！

社會を動す原動力としての母に送る！

新時代に生きる若き婦人に送る！

多くの女性は、次から次へと身にふりかゝつて來る精神的、肉體的の重荷のために、いつか日頃の聰明な理解力や判斷力を失ひ、遂には自己をも見失ひ惱みの一點のみを凝視して全體を忘却して了ふのである。女性の不幸は實にこの點から來てゐる。故になやみや苦悶の原因を總體的に反省し理解することによつて、女性は眞に自己を救ひ得るのである。玆に於て、女性の向上にひたすら心を碎きつつある著者が「母の書」一卷を世に送り出すことは、極めて重大なる意義をもつてゐる。

子供の將來を支配するものは實に母親である。このことは、世のすべての母親に强き信念と自覺と勇氣とを保持せしめねばならぬ最大の理由である。蓋し、子女の教養者としての母が、强く且つ廣き女性の精神を把握せずしては到底滿足なる第二の國民を育成することが不可能だからである。女性は如何に爲さねばならぬか、如何に考へねばならぬかを說き盡してゐるこの書は、新らしき時代に生くる母には勿論、近き將來に母になる未婚の子女に必讀せらるべき好著。

江
刀

27
177